Nikon

ニコン クローズアップスピードライト コマンダーキット
R1C1
ニコン クローズアップスピードライト リモートキット
R1
ワイヤレススピードライトコマンダー
SU-800
ワイヤレスリモートスピードライト
SB-R200

使用説明書

安全上のご注意

ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は製品を安全に正しく使用していただき、お使いになる方や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

△記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合は電池を取り出す）が描かれています。

⚠ 危険　ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800、ワイヤレスリモートスピードライトSB-R200について

⚠ 危険

電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること

そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠ 警告　ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800、ワイヤレスリモートスピードライトSB-R200について

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止　すぐに修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。
電池、電源を抜いて、販売店またはニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は、速やかに電池を取り出すこと
そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。
電池を取り出す際、やけどに十分注意してください。電池を抜いて、販売店またはニコンサービスセンターに修理を依頼してください。

水につけたり、水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと
発火したり感電の原因となります。

引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと
プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

車の運転者等にむけてスピードライトを発光しないこと
事故の原因となります。

スピードライトを人の目に近づけて発光しないこと
視力障害の原因となります。
特に乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。

発光窓を人体やものに密着させて発光させないこと
やけどや発火の原因となります。

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと
幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

使用説明書に表示された電池を使用すること
正しい電池を使用しないと、液もれ、破裂、発火の原因となります。

リチウム電池は非充電式電池ですので、充電しないこと
液もれ、破裂、発火の原因となります。

電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと
そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

コマンダーSU-800のコマンダー送信窓を人の目に近づけて発光させないこと
視力障害の原因となります。

⚠ 注 意 ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800、ワイヤレスリモートスピードライトSB-R200について

感電注意

ぬれた手でさわらないこと
感電の原因になることがあります。

保管注意

製品は幼児の手の届かない所に置くこと
なめて感電したり、ケガの原因となることがあります。

注意

強い衝撃を与えないこと
内部が故障し、破裂、発火の原因になることがあります。

溶剤清掃禁止

シンナーやベンジンなどの有機溶剤を使ってふかないこと
また、ナフタリン、しょうのうの入った場所に保管しないこと
プラスチックケースが割れて火災や感電の原因となることがあります。

電池を取る

保管するときには電池を外すこと
発火、液もれの原因となることがあります。

⚠ 危 険 リチウム電池について

危険

電池からもれた液が目に入ったときは、すぐにきれいな水で洗い、医師の治療を受けること
そのままにしておくと、目に傷害を与える原因となります。

⚠ 警 告 リチウム電池について

禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

分解禁止

電池をショート、分解しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

電池に表示された警告・注意を守ること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

使用説明書に表示された電池を使用すること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

警告

外装チューブをはがしたり、キズをつけないこと
また、外装チューブがはがれたり、キズがついている電池は絶対に使用しないこと
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

保管注意

電池は幼児の手の届かないところに置くこと
幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

警告

電池の「＋」と「－」の向きを間違えないようにすること
液もれ、発熱、破裂の原因となります。

水かけ禁止

水につけたり、濡らさないこと
液もれ、発熱の原因となります。

禁止

充電式電池以外は、充電しないこと
液もれ、発熱の原因となります。

警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁すること
他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。
お住まいの自治体の規則に従って、正しく廃棄してください。

警告

電池からもれた液が皮膚や衣服に付いたときは、すぐにきれいな水で洗うこと
そのままにしておくと、皮膚がかぶれたりする原因となります。

⚠ 警告 TTL調光コードSC-30について

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと
感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

はじめに

このたびはニコン製品をお買い上げいただきありがとうございます。
ご使用の前にこの「使用説明書」をよくお読みになり、製品を正しくお使いください。別冊の「クローズアップスピードライト撮影作例集」では、本製品の機能を生かした撮影事例をご紹介しています。また、ご使用のカメラやスピードライトの使用説明書もあわせてお読みください。

主な機能と特長

本システムはニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）の搭載により、多彩なクローズアップ撮影用照明およびワイヤレス増灯撮影を可能にするスピードライトシステムです。CLS対応カメラに装着して発光制御を行うワイヤレススピードライトコマンダーSU-800と、ガイドナンバー10（ISO100・m）/14（ISO200・m）の光量を持つ発光部ワイヤレスリモートスピードライトSB-R200、SB-R200をレンズ先端に装着するアタッチメントリングSX-1を中心に構成されています。

- CLS対応カメラとの組み合わせでは、スピードライトを3つのグループに分けて発光制御できます。
- CLS対応カメラに装着したSU-800がSB-R200をワイヤレスで発光制御するクローズアップ撮影が容易に行えます。（☞P. 65）
- SB-R200はレンズ先端に装着できるほか、手持ちで照明したり、付属のスピードライトスタンドAS-20を使用して自由に配置できます。
- SU-800は、ワイヤレスでSB-R200、SB-600などを制御するコマンダー機能を備えており、ライティングをリモート（補助灯）のみで行うコマンダー撮影が行えます。（☞P. 79）
- 配光アダプターSW-11やカラーフィルターセットSJ-R200、拡散板SW-12、フレキシブルアームクリップSW-C1など、さまざまなクローズアップ撮影が楽しめる各種付属品を用意しています。
- SU-800とCLSに対応していないカメラとの組み合わせでは、クローズアップ（コード接続）撮影のみ可能ですが、TTL調光コードSC-30（別売）が必要です。（☞P. 109）

ニコンクリエイティブライティングシステム(CLS)について

ニコンクリエイティブライティングシステム(CLS)は、ニコンのスピードライトとカメラのデータ通信方式を改良したシステムで、スピードライト撮影に新たな可能性を開く、さまざまな機能を提供します。その主な機能は、下記の通りです。

・i-TTLモード

ニコンクリエイティブライティングシステム用のTTL調光モードです。必ずモニター発光を行い、被写体からの反射光を測光して発光制御します。そのため、周辺光の影響を受けにくい特長を持っています。(☞P. 116)

・アドバンストワイヤレスライティング

CLS対応カメラでのワイヤレス増灯撮影時、TTLモード(i-TTLモード)を使用できます。また、スピードライトを3つのグループに分けて発光制御を行うことで、よりクリエイティブな増灯撮影が可能です。(☞P. 26)

・FVロック撮影

FVとはFlash Valueの略で、フラッシュによる被写体の露光量を意味します。対応カメラでFVロックを行うと、構図を変えてもフラッシュ露光量をロックした撮影が可能です。また、ロック中にズーミングしたり、絞り値を変更しても、発光量は自動追随するので被写体へのフラッシュ露光量は変わりません。(☞P. 98)

・オートFPハイスピードシンクロ

スピードライト撮影時のシャッタースピードを使用カメラの最高速度まで可能にします。開放側の絞りが使用できるので、被写界深度をより浅くしたスピードライト撮影が可能です。(☞P. 96)

CLSの詳細は、CLS対応カメラの使用説明書もあわせてご覧ください。

インターネットご利用の方へ

使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を、以下の当社webサイトでご覧いただけます。

http://www.nikon-image.com/support/

・製品をより有効にご利用いただくため、定期的にアクセスされることをおすすめいたします。

「見て聞くマニュアル」デジチューター
http://www.nikondigitutor.com/
デジチューターでは、インターネット上でR1C1の基本的な操作方法を、動画や作例写真をまじえながら説明しています。本書とあわせて、デジチューターもぜひご活用ください。

本書の表記について

「初期設定」について

本書では、ご購入時に設定されている機能やモードの設定状態を「初期設定」と表記しています。

「ニコンクリエイティブライティングシステム」(CLS)について

本書では、ニコンクリエイティブライティングシステムを「CLS」と記載する場合があります。

「ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800」、「ワイヤレスリモートスピードライトSB-R200」について

本書では、ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800を「コマンダーSU-800」または「SU-800」、ワイヤレスリモートスピードライトSB-R200を「リモートスピードライトSB-R200」または「SB-R200」と記載する場合があります。

本文中のマークについて

- ✔：製品の故障や撮影の失敗を防ぐために注意していただきたいことを記載しています。
- ：製品を使用する際に知っておいていただきたいことを記載しています。
- ：製品を使用する際に便利な情報やヒントを記載しています。

目次

クローズアップ撮影の詳細と撮影手順（CLS対応カメラとの組み合わせ）

コマンダー撮影の詳細と撮影手順（CLS対応カメラとの組み合わせ）

各種機能の使い方

各種アクセサリーを使用した撮影

CLSに対応していない一眼レフカメラとの組み合わせでの撮影

資料

ご確認ください

本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のカメラ及びレンズなどのアクセサリーに適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでご使用ください。

・他社製品との組み合わせ使用により、事故、故障などが起こることもあります。

撮影の前には試し撮りを

大切な撮影をするときには、必ず試し撮りをして、スピードライトが正常に機能するかを事前に確認してください。

・本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用及び利益喪失等に関する損害）についての補償はご容赦ください。

保証書とカスタマー登録カードについて

本製品には保証書とカスタマー登録カード（コマンダーキットR1C1、リモートキットR1）が添付されていますのでご確認ください。

・保証書の詳細は「アフターサービスと保証について」（☞P. 130）をご覧ください。

・カスタマー登録は下記ホームページからも登録できます。
https://reg.nikon-image.com

定期的に点検サービスを受けてください

スピードライトは精密機械ですので、1～2年に1度は定期点検を、3～5年に1度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

・特に業務用にご使用になる場合は、早めに点検整備を受けてください。

・点検整備を依頼される際は、より安心してご愛用いただけるよう一緒にお使いのカメラやレンズ等もあわせて点検依頼されることをおすすめします。

使用説明書の再発行は当社サービス機関へ

使用説明書の内容が破損などによって判読できなくなったときは、当社サービス機関にて新しい使用説明書をお求めください（有料）。

推奨カメラ、レンズ

推奨カメラ

ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）対応カメラ

SU-800とSB-R200をワイヤレスで使用して、多彩なクローズアップ撮影用照明および増灯撮影ができます。

・使用できる機能など、詳細はカメラの使用説明書をご覧ください。

CLS対応カメラ：D3シリーズ、D700、D300シリーズ、D2シリーズ、D200、D90、D80、D70シリーズ、D5000、D3000、D60、D50、D40シリーズ、F6など

推奨レンズ

マイクロニッコールレンズ

マイクロニッコールレンズは、撮影倍率が1/2倍または等倍までの撮影ができます。さらに、ニコンカメラに最適な光学性能を備えているので、無限遠から至近距離まで質感にすぐれたクローズアップ撮影ができます。

- Ai AF マイクロニッコール60mm F2.8D
- AF-S マイクロニッコール60mm F2.8G ED
- Ai AF マイクロニッコール105mm F2.8D
- AF-S VRマイクロニッコールED 105mm F2.8G (IF)
- Ai AF マイクロニッコールED 200mm F4D (IF)
- AF-S DX Micro NIKKOR 85mm f/3.5G ED VR

注意： Ai AF ズームマイクロニッコールED 70-180mm F4.5-5.6Dは、SB-R200の重さによってピントがずれる場合があるため、SB-R200をレンズに装着しての撮影はできません。

D70シリーズのコマンダーモードについて

D70シリーズの内蔵フラッシュをコマンダーとしてワイヤレス増灯撮影をする場合は、必ずリモート（補助灯）のチャンネルは「3」に、グループは「A」に設定してください。これ以外に設定すると、リモート（補助灯）は発光しません。

CLSに対応していない一眼レフカメラとの組み合わせについて

SU-800 とSB-R200 を、TTL調光コードSC-30（別売）で接続して使用できます。（☞P. 109）

COOLPIXシリーズについて

COOLPIX P6000は、SU-800を使用してコマンダー撮影ができます。ただし、リモート（補助灯）のグループは「Aグループ」のみ使用可能です。Aグループの発光モードはTTLに設定し、マスター（主灯）およびB、Cグループは必ず“---”（発光禁止）に設定してください。

・他のCOOLPIXシリーズではSU-800とSB-R200は使用できません。（☞P. 126）

SB-R200装着時のレンズの機能制限について

レンズによって、SB-R200の装着時可能個数や使用可能な焦点距離が異なります。詳細は「SB-R200装着時のレンズの機能制限について」(☞P. 120)をご覧ください。

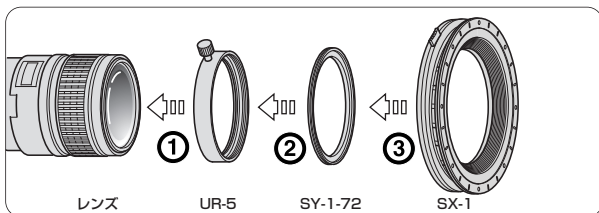
SB-R200を装着して使用できないレンズ

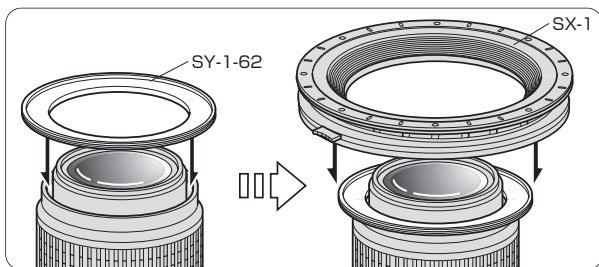
レンズ先端部が回転するAFニッコールレンズ

オートフォーカス時にレンズ先端が動くレンズについて

オートフォーカス動作時にレンズ先端部が前後に動くレンズでは、発光部が負荷となり、レンズおよびカメラのオートフォーカス機構を傷めるおそれがあるため、オートフォーカス撮影をしないでください。必ず、マニュアルフォーカスで撮影してください。

AF マイクロニッコール60mm F2.8Dについて

AFマイクロニッコール60mm F2.8Dは、必ず専用アダプターリングUR-5(別売)をレンズに取り付けてから、アダプターリングSY-1-72を介してSX-1を装着してください。

AF マイクロニッコール105mm F2.8Dについて

AF マイクロニッコール105mm F2.8Dは、アダプターリングSY-1-62を使用してアタッチメントリングSX-1を装着すると、オートフォーカス撮影ができます。

製品内容をご確認ください

製品別の可能な撮影

お買い求めの製品によって、使用可能な撮影が異なります。また、付属品以外の製品を使用することもあります。下表でご確認ください。

ニコン クローズアップスピードライト コマンダーキットR1C1をお買い求めの場合は、本書の全体を通してお読みください。

ニコン クローズアップスピードライト リモートキットR1、コマンダーSU-800、リモートスピードライトSB-R200をお買い求めの場合は、必要な部分をお読みください。

製品名	使用可能な撮影	組み合わせるカメラ	付属品以外に使用するスピードライト、コマンダー
ニコン クローズアップスピードライトコマンダーキットR1C1	クローズアップ撮影	CLS対応カメラ CLSに対応していないカメラ＊1	—
	コマンダー撮影	CLS対応カメラ	—
ニコン クローズアップスピードライトリモートキットR1	クローズアップ撮影	コマンダー機能搭載CLS対応カメラ	—
	コマンダー撮影	コマンダー機能搭載CLS対応カメラ	SU-800またはSB-900、SB-800
コマンダーSU-800	クローズアップ撮影	CLS対応カメラ CLSに対応していないカメラ＊1	SB-R200
	コマンダー撮影	CLS対応カメラ	SB-R200またはSB-900、SB-800、SB-600
リモートスピードライトSB-R200	クローズアップ撮影	CLS対応カメラ CLSに対応していないカメラ＊1	SU-800
		コマンダー機能搭載CLS対応カメラ	—
	コマンダー撮影	コマンダー機能搭載CLS対応カメラ	SB-900、SB-800またはSU-800

＊1：別売のTTL調光コードSC-30が必要です。（☞P. 123）

注意：CLS対応カメラでは、TTL調光コードSC-30（別売）は不要です。

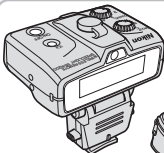
製品構成

お買い求めの製品により付属品が異なります。ご確認ください。

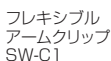
・下のイラストの縮尺は同一ではありません。

ニコン クローズアップスピードライト コマンダーキット R1C1

ワイヤレススピードライトコマンダー
SU-800

SU-800用
ソフトケース
SS-SU800

ワイヤレスリモート
スピードライト
SB-R200 ×2

内蔵フラッシュ用
赤外パネル
SG-3IR

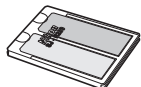
SB-R200用
ソフトケース
SS-R200 ×2

フレキシブル
アームクリップ
SW-C1

スピードライト
スタンド
AS-20 ×2

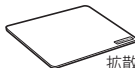
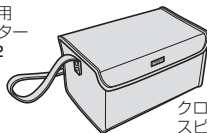
ニコン クローズアップスピードライト リモートキット R1

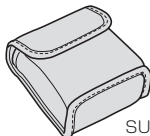
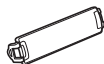
アタッチメントリング
SX-1

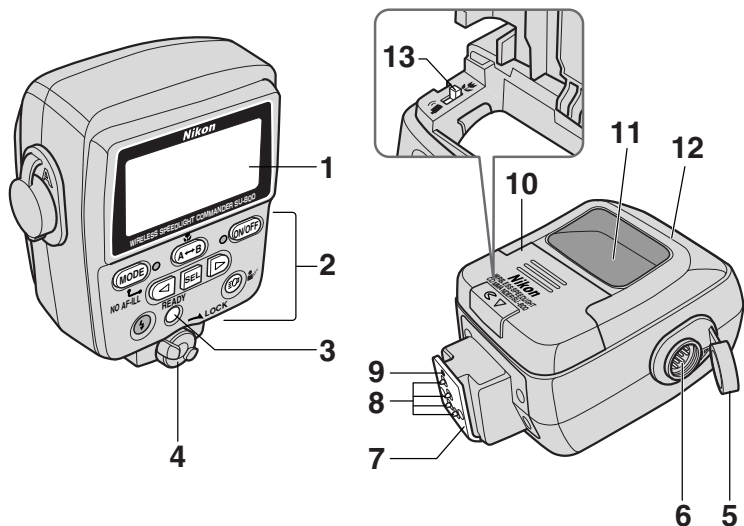
アダプターリング
×1セット(5個)

SX-1用
ソフトケース
SS-SX1

カラーフィルターセット
(同梱専用)
SJ-R200
(4種4枚)×2セット

SB-R200用
配光アダプター
SW-11 ×2

カラーフィルター
ホルダー
SZ-1 ×2

拡散板
SW-12

クローズアップ
スピードライト
キットケース
SS-MS1

コマンダーSU-800

	ニコン クローズアップ スピードライト コマンダーキット R1C1	ニコン クローズアップ スピードライト リモートキットR1	コマンダー SU-800	リモート スピードライト SB-R200
ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800	1個	—	1個	—
ワイヤレスリモートスピードライト SB-R200	2個	2個	—	1個
アタッチメントリング SX-1	1個	1個	—	—
アダプターリング	1セット(5個)	1セット(5個)	—	—
SB-R200用配光アダプター SW-11	2個	2個	—	—
カラーフィルターホルダー SZ-1	2個	2個	—	1個
カラーフィルターセット(同梱専用) SJ-R200	4種4枚 ×2セット	4種4枚 ×2セット	—	4種4枚
スピードライトスタンド AS-20	2個	2個	—	1個
内蔵フラッシュ用赤外パネル SG-3IR	1枚	1枚	—	—
フレキシブルアームクリップ SW-C1	1個	1個	—	—
拡散板 SW-12	1枚	1枚	—	—
クローズアップスピードライトキットケース SS-MS1	1個	1個	—	—
SU-800用ソフトケース SS-SU800	1個	—	1個	—
SB-R200用ソフトケース SS-R200	2個	2個	—	1個
SX-1用ソフトケース SS-SX1	1個	1個	—	—

製品および製品各部の名称と主なはたらき

■ワイヤレススピードライトコマンダー SU-800

1 **表示パネル**（☞P. 20）

2 **各種操作ボタン**

3 **レディーライト**
充電完了時に点灯します。

4 **ロックレバー**（☞P. 29）

5 **ターミナルキャップ**

6 **コード接続ターミナル**
CLSに対応していないカメラ使用時、SU-800とSB-R200をコード接続します。（☞P. 110）

7 **取り付け脚**（☞P. 29）

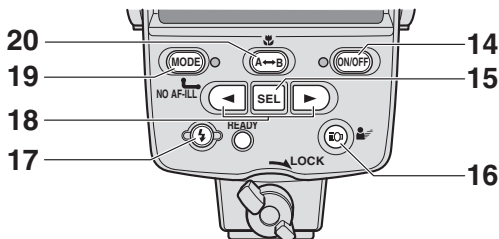
8 **カメラ連動接点**

9 **ロックピン**

10 **電池ぶた**（☞P. 28）

11 **AF補助光窓**

12 **コマンダー送信窓**

13 **コマンダー／クローズアップ選択スイッチ**
クローズアップ機能／コマンダー機能を切り替えます。（☞P. 58）

■SU-800の操作ボタンについて

14 ［ON/OFF］（電源）ボタン
電源のON/OFFを切り替えます。
SU-800をバッグに入れて持ち運ぶ際などは、誤発光や誤動作を防ぐため、必ず[ON/OFF]ボタンで電源OFFにしてください。

15 ［SEL］ボタン
設定する項目を選択します。選択された項目は点滅し、[◀▶]ボタンで変更できます。
約2秒間押し続けると、機能を切り替えます。

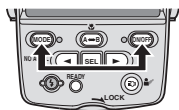
16 ターゲットライトボタン
モデリング発光を行います。(☞P. 89)
約1秒間押し続けると、ターゲットライトの点灯／消灯を行います。(☞P. 90)

17 ［テスト］ボタン
発光テストを行います。(☞P. 88)

18 ［◀］（左）ボタン

［▶］（右）ボタン
点滅表示された項目の数値や設定を変更します。

19 ［MODE］（モード）ボタン
発光モードを設定します。

20 ［A←→B］選択ボタン
クローズアップ機能時にA、Bの発光／発光禁止を設定します。

［ON/OFF］ボタン＋［MODE］ボタンを同時に約2秒間押す（ツーボタンリセット）
コマンダー／クローズアップ選択スイッチで選択されている機能のすべての設定を初期設定に戻します。表示画面が3回点滅します。

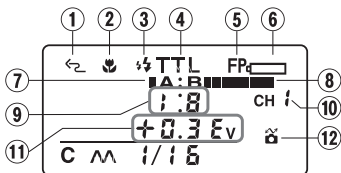
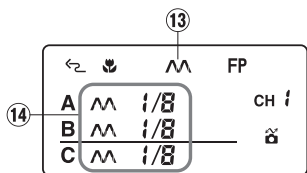
操作ボタンの照明

本機の電源がONの状態で各種操作ボタンを押すと、操作ボタンの照明が約16秒間点灯します。

・カメラ側の表示パネルの照明が点灯すると、連動して本機の操作ボタンの照明も点灯します。
・カメラのシャッターをきると消灯します。

SU-800の表示パネル、アイコン

SU-800の表示パネルのアイコンは、各種設定状態を表しています。
表示されるアイコンは、組み合わせや設定によって異なります。
・下の図は説明のための表示で、実際とは異なります。

クローズアップ撮影時のアイコンの例

TTLモード画面表示例

M（マニュアル）モード画面表示例

①ワイヤレス送信
SU-800からSB-R200などのリモートスピードライト（補助灯）へ、制御信号が送られます。

②クローズアップ機能
クローズアップ機能が設定されています。

③モニター発光
本発光直前にきわめて短時間、モニター発光を行い、本発光に必要な被写体情報を収集します。

④TTLモード
被写体からの反射光をカメラで測光し、カメラがスピードライトの発光量を制御するTTL調光を行います。

⑤オートFPハイスピードシンクロ
オートFPハイスピードシンクロ機能を備えたカメラに接続すると、FP発光が可能です。（☞P. 96）

⑥電池交換
電池交換が必要です。

⑦Aの光量表示
TTLモード時のAグループの発光量のイメージです。

⑧Bの光量表示
TTLモード時のBグループの発光量のイメージです。

⑨A対Bの光量比
TTLモード時のA対Bグループの光量比です。

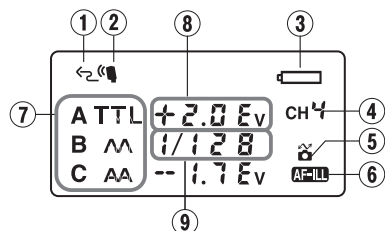
⑩チャンネル
SU-800とSB-R200の交信チャンネルです。

⑪A、Bの調光補正量
TTLモード時のA、Bグループの調光補正量です。

⑫CLS対応カメラ接続
CLS対応カメラに接続中です。

⑬マニュアル発光
任意の絞り値と発光量（ガイドナンバー）の組み合わせで発光する、マニュアル発光を行います。

⑭マニュアル発光量
マニュアルモード時の各グループの発光量です。

コマンダー撮影時のアイコンの例

①ワイヤレス送信
SU-800からSB-R200などのリモートスピードライト（補助灯）へ、制御信号が送られます。

②コマンダー機能
コマンダー機能が設定されています。

③電池交換
電池交換が必要です。

④チャンネル
コマンダーとスピードライトの交信チャンネルです。

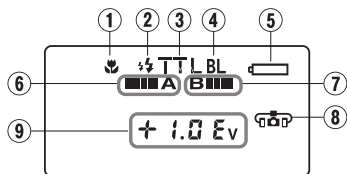
⑤CLS対応カメラ接続
CLS対応カメラに接続中です。

⑥AF補助光設定
AF補助光を照射します。照射禁止設定時はNO AF-ILLが表示されます。（☞P.91）

⑦グループ
スピードライトのグループと、各グループの発光モードです。

⑧調光補正量
調光補正量です。

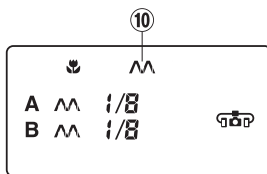
⑨マニュアル発光量
マニュアルモード時の各グループの発光量です。

クローズアップ（コード接続）撮影時のアイコンの例

TTL BLモード画面表示例

M（マニュアル）モード画面表示例

①クローズアップ機能
クローズアップ機能が設定されています。

②モニター発光
本発光直前にきわめて短時間、モニター発光を行います。

③TTLモード
被写体からの反射光をカメラで測光し、カメラがスピードライトの発光量を制御するTTL調光を行います。

④バランス調光
被写体と背景光のバランスを考慮して発光量を制御する、バランス調光を行います。

⑤電池交換
電池交換が必要です。

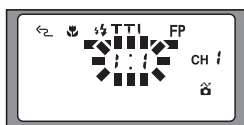
⑥Aの発光表示
TTLモード時、Aグループが発光します。

⑦Bの発光表示
TTLモード時、Bグループが発光します。

⑧コード接続
CLSに対応していないカメラ装着時で、SB-R200とコード接続中です。SB-R200が正常に接続されていない場合は点滅します。

⑨A、Bの調光補正量
TTLモード時のA、Bグループの調光補正量です。

⑩マニュアルモード
任意の絞り値と発光量（ガイドナンバー）の組み合わせで発光する、マニュアル発光を行います。

点滅表示は

点滅表示している項目は、設定（変更）可能であることを示しています。点滅表示は約6回継続されます。

・警告やエラーの内容も点滅表示されます。
・［ON/OFF］ボタン＋［MODE］ボタンを同時に約2秒間押した場合（ツーボタンリセット）は、3回点滅表示されます。（☞P. 19）

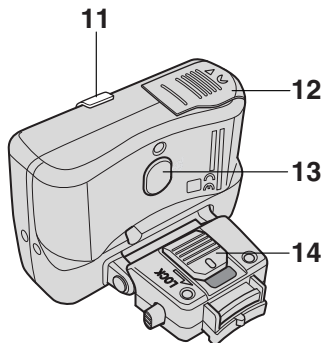
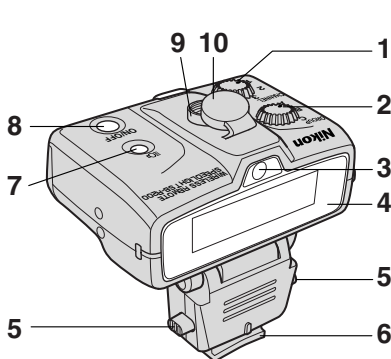
表示パネルバックライトの照明

SU-800の電源がONの状態で各種操作ボタンを押すと、バックライトの照明が約16秒間点灯します。

・カメラ側の表示パネルの照明が点灯すると、連動してSU-800の表示パネルの照明も点灯します。
・カメラのシャッターをきると消灯します。

表示パネルの特性

・表示パネルの液晶には指向性があります。斜め上から見ると読み取りにくくなりますが、やや下の方向から見ると読み取りやすくなります。
・約60℃以上の高温下では、一時的に液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば表示も正常に戻ります。
・低温下では液晶の応答速度が多少遅くなり、表示が読み取りにくくなったり、表示の切り替わりに時間がかかったりすることがありますが、常温に戻れば正常に戻ります。

■ワイヤレスリモートスピードライト SB-R200

1 [CHANNEL]（チャンネル）設定ダイヤル
コマンダーとSB-R200の交信チャンネルを設定します。（☞P. 35）

2 [GROUP]（グループ）設定ダイヤル
SB-R200のグループを設定します。（☞P. 36）

3 ターゲットライト

4 フラッシュヘッド

5 リリースボタン
本機の位置を変える場合、リリースボタンを押したままゆっくり動かし、希望の位置でリリースボタンから指を離して固定します。（☞P. 32）

6 取り付け脚（☞P. 31）

7 ターゲットライトボタン
ターゲットライトの点灯／消灯を切り替えます。（☞P. 90）

8 [ON/OFF]（電源）ボタン
電源のON/OFFを切り替えます。
SB-R200をバッグに入れて持ち運ぶ際などは、誤発光や誤動作を防ぐため、必ず［ON/OFF］ボタンを押して電源OFFにしてください。

9 コード接続ターミナル
CLSに対応していないカメラ使用時、SU-800とSB-R200をコード接続します。（☞P. 110）

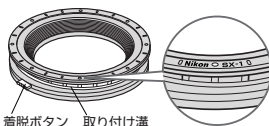
10 ターミナルキャップ
コードを使用しないときはキャップを閉じてください。

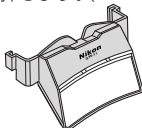
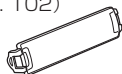
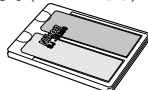
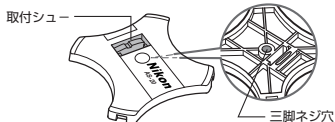
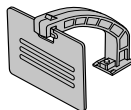
11 レディーライト
電源ONで緑色に点灯し、充電が完了すると赤色に変わります。
電池容量不足の場合には、緑色が点滅します。

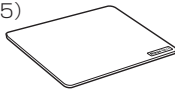
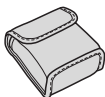
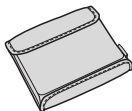
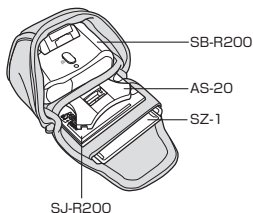
12 電池ぶた（☞P. 30）

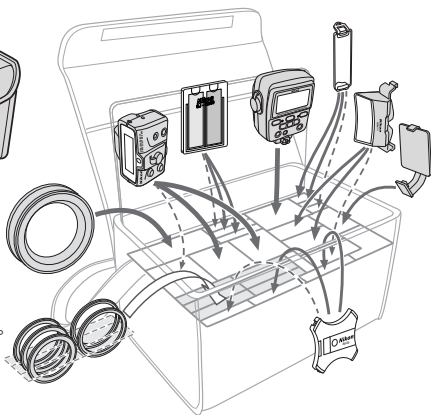
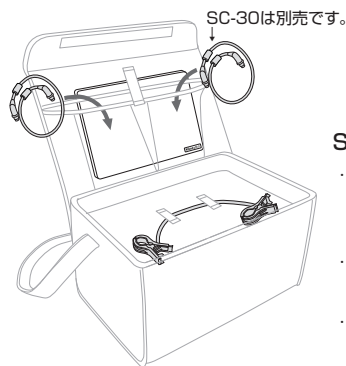
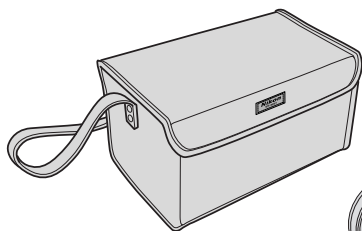
13 ワイヤレスリモートセンサー窓

14 ロックスイッチ
本機を、アタッチメントリングに固定します。（☞P. 31）

■アタッチメントリング SX-1
レンズ先端に装着したアダプターリングの上に取り付けて、SB-R200を固定します。SB-R200はSX-1の任意の位置で着脱可能で、リング円周上を自由にスライドできます。SX-1には15°ごとにクリックストップがあります。

■アダプターリング
SY-1-52、SY-1-62、SY-1-67、SY-1-72、SY-1-77
アタッチメントリングSX-1を装着するためにレンズ先端に装着するリングです。フィルター径が52mm、62mm、67mm、72mm、77mmの5種類が用意されています。

■SB-R200用配光アダプター SW-11
SB-R200に装着します。スピードライト光を光軸中心に寄せ、至近距離での撮影時に効果を発揮します。(☞P. 103)

■カラーフィルターホルダー SZ-1
SB-R200の発光部にカラーフィルター(SJ-R200または別売のSJ-2)を装着できます。(☞P. 102)

■カラーフィルターセット(同梱専用) SJ-R200
蛍光灯用(FL-G1)、電球用(TN-A1)、BLUE(青)、RED(赤)が1枚ずつ、計4枚のセットです。(☞P. 100)

■スピードライトスタンド AS-20
SB-R200を任意の場所に安定して設置できます。また、アタッチメントリングSX-1を三脚に取り付けできます。(☞P. 107)

■内蔵フラッシュ用赤外パネル SG-3IR
D70シリーズなどの内蔵フラッシュをコマンダーとして使用するときに、カメラのアクセサリーシューに装着します。(☞P. 50)

■フレキシブルアームクリップ SW-C1
拡散板などを保持するのに使用します。アタッチメントリングSX-1の取り付け溝にも装着できます。(☞P. 105)

■拡散板 SW-12
スピードライト光を和らげる乳白板です。(☞P. 105)

■SU-800用ソフトケース SS-SU800

■SX-1用ソフトケース SS-SX1

■SB-R200用ソフトケース SS-R200

■クローズアップスピードライト キットケース SS-MS1

SC-30は別売です。

SS-MS1のお手入れについて

・ケースは水拭きしないでください。また、シンナーやベンジンなどの有機溶剤や漂白剤などは絶対に使用しないでください。

・ケースが濡れたときは、乾いた柔らかい布などで水を拭き取り、日陰で十分に乾かしてください。

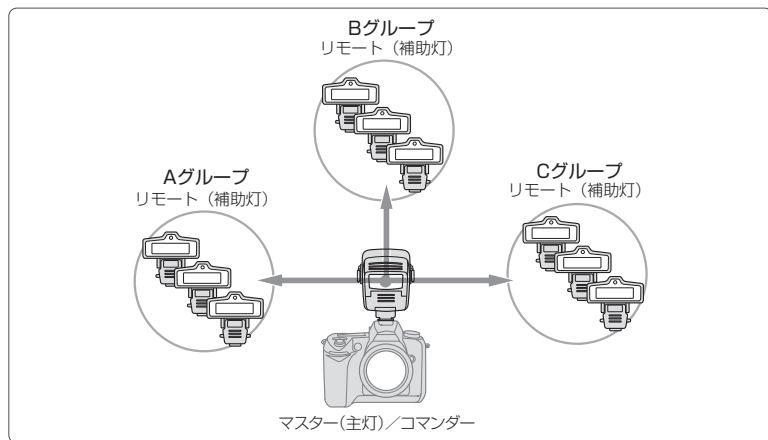
・ケースを湿気の多い場所や直射日光の当たる場所に長時間放置すると、表面が固くなったり、切れたり、色があせたりすることがありますので、ご注意ください。

ニコンクリエイティブライティングシステム(CLS)のワイヤレス増灯撮影について

CLS対応のカメラとスピードライトの組み合わせでは、リモート(補助灯)を最大3つのグループに設定し、マスター(主灯)/コマンダーおよびリモート(補助灯)の各グループごとに異なる発光制御が可能なワイヤレス増灯撮影(アドバンストワイヤレスライティング)が行えます。

マスター(主灯)とリモート(補助灯)

本書では、カメラに装着したコマンダーSU-800、スピードライト、カメラの内蔵フラッシュ、あるいはTTL調光コードを使用してカメラに最初に接続されているスピードライト(1台のみ)をマスター(主灯)/コマンダーと呼び、それ以外のスピードライトをリモート(補助灯)と呼びます。

アドバンストワイヤレスライティングの仕組み

・リモート(補助灯)のグループは最大3つ(A、B、C)設定できます。
・リモート(補助灯)の1グループは1台または複数のスピードライトで設定できます。
・マスター(主灯)と3つのリモート(補助灯)グループ、合計4つのグループごとに発光モード、調光補正値などを制御できます。
・マスター(主灯)/コマンダーとリモート(補助灯)の交信には、4つのチャンネルから1つを選んで使用します。
・複数の人がアドバンストワイヤレスライティング撮影を行っているときは、誤発光を防止するため、他の人とは異なるチャンネルに設定してください。

ニコン クローズアップスピードライト コマンダーキットR1C1での 撮影手順

（ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）対応カメラとの組み合わせ）

ニコン クローズアップスピードライト コマンダーキットR1C1とCLS対応カメラとの組み合わせで可能な**ワイヤレスでのクローズアップ撮影、コマンダー撮影**について、最も簡単な撮影手順を説明しています。

・クローズアップ撮影の詳細は（☞P. 65）
・コマンダー撮影の詳細は（☞P. 79）

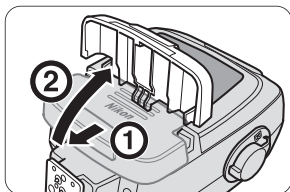
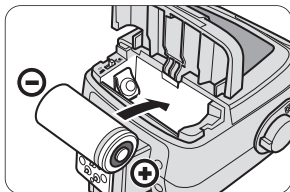
クローズアップ撮影手順

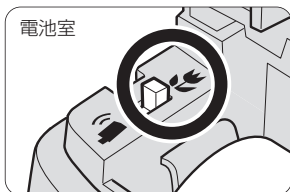
1 SU-800に電池を入れます。
2 SU-800をカメラに取り付けます。
3 SB-R200に電池を入れます。
4 SB-R200をレンズに装着します。
5 カメラ、SU-800、SB-R200の電源を入れます。
6 SU-800で発光モードを設定します。
7 SU-800とSB-R200のチャンネルを設定します。
8 SB-R200のグループを設定します。
9 構図を決め、撮影します。

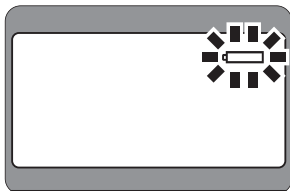
コマンダー撮影手順

1 SU-800のコマンダー機能を設定します。
2 SB-R200を設置します。
3 カメラ、SU-800、SB-R200の電源を入れます。
4 SU-800で発光モードを設定します。
5 チャンネル、グループを設定します。
6 構図を決め、撮影します。

クローズアップ撮影手順

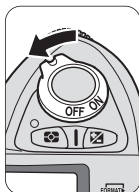
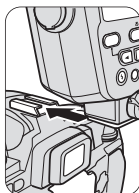
コマンダーSU-800に電池を入れます。

1 電池ぶたを開けます。

2 電池を入れ、電池ぶたをスライドさせて閉じます。

使用できる電池は、3VのCR123Aリチウム電池です。

クローズアップ機能設定の確認

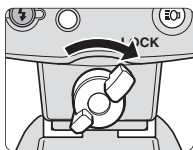
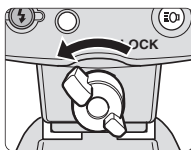
電池室内のコマンダー／クローズアップ選択スイッチがクローズアップ側に設定されていることを確認してください。

電池交換の目安

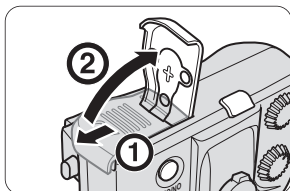
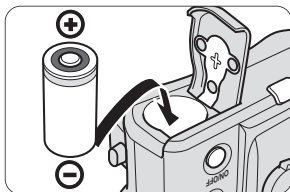
SU-800は電源ONや発光後、約30秒が経過してもレディーライトが点灯しない場合は、電池交換表示が点滅します。

・電池を交換してください。

SU-800をカメラに取り付けます。

1 カメラ、SU-800の電源をOFFにします。

2 SU-800のロックレバーを左に回してから、取り付け脚をアクセサリーシューに差し込み、ロックレバーを右に回します。

✔ロックレバーについて

ロックする際には、ロックレバーが止まるまで右方向に約90˚回します。ロックを解除する際には、左方向に止まるまで回します。

ロックする

ロックを解除する

リモートスピードライトSB-R200に電池を入れます。

1 電池ぶたを開けます。

2 電池を入れ、電池ぶたをスライドさせて閉じます。

使用できる電池は、3VのCR123Aリチウム電池です。

電池交換の目安

SB-R200が電池容量不足になった場合は、電源ONや発光後、緑色レディーライトが点滅します。

・電池を交換してください。

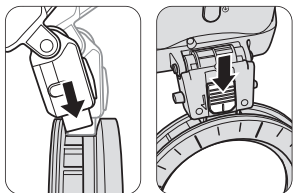
SB-R200をレンズに装着します。

1 アダプターリングをレンズの先端に取り付けます。

アダプターリングはフィルター径が52mm、62mm、67mm、72mm、77mmの5種類が用意されています。

・アダプターリングは止まるまで回してください。
・他のレンズフィルターとは併用できません。
・図のレンズはAi AFマイクロニッコール105mm F2.8Dです。

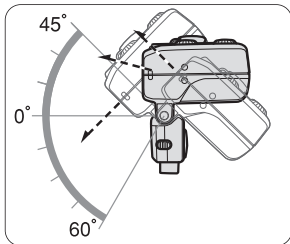
2 アタッチメントリングSX-1の着脱ボタンを押し、そのままアダプターリングに装着し、指を離します。

・必ずSX-1のニコンロゴ（☞P. 24）が下側にくるように装着してください。
・両方の着脱ボタンを両手でしっかりと押して装着してください。
・SX-1が斜めに取り付けられていないことを確認してください。斜めに取り付けられている場合は、取り付け直してください。

3 SB-R200の取り付け脚をSX-1の取り付け溝に図のように差し込み、ロックスイッチをスライドします。

取り付け脚は向きが違うと挿入できません。

・ロックスイッチは止まるまでスライドさせ、赤い部分が見えなくなっていることを確認してください。

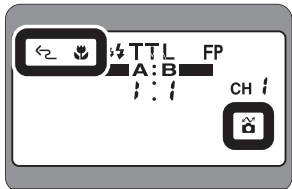
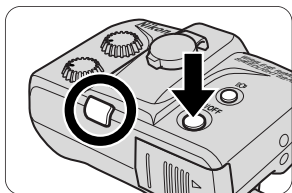
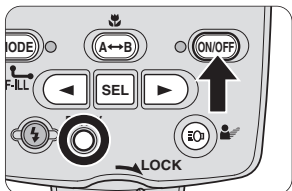
4 SB-R200の取り付け脚のリリースボタンを押したままゆっくり動かし、希望の位置で指を離して固定します。

SX-1は15°ごとにクリックストップがあります。

5 SB-R200の発光部を設定します。

SB-R200の発光部はレンズ光軸側に60°、反対側に45°回転できます。15°ごとにクリックストップがあります。

SB-R200をレンズから離して設置するには

SB-R200は、スピードライトスタンドAS-20を使用して、任意の場所に設置できます。(☞P. 107)

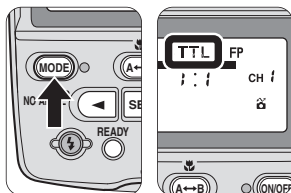
カメラ、SU-800、SB-R200の電源を入れます。

1 カメラ、SU-800、SB-R200の[ON/OFF]（電源）ボタンを押して、電源ONにします。

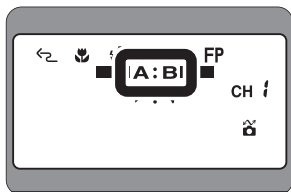
SU-800のレディーライトの点灯を確認します。

SB-R200のレディーライトは、電源ONで緑色に点灯し、充電が完了すると赤色に変わります。

2 SU-800の表示を確認します。

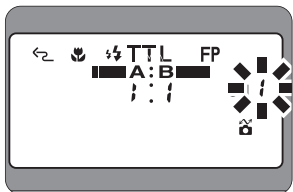
SU-800でワイヤレス送信表示、クローズアップ機能表示、CLS対応カメラ接続表示を確認します。（☞P. 20）

SU-800で発光モードを設定します。

1 SU-800の[MODE]（モード）ボタンを押して、発光モードを設定します。

一般的な撮影にはTTLモードの使用をおすすめします。

2 SB-R200の発光設定を確認します。

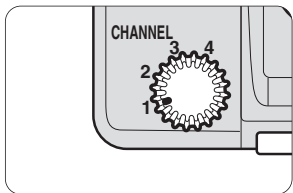
A、B両方のグループが表示されているのを確認してください。

・AまたはBグループの表示が消えていると、そのグループは発光しません。[A⟷B] 選択ボタンを押して、両方を表示させてください。

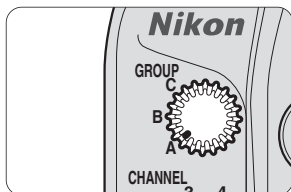
SU-800とSB-R200のチャンネルを設定します。

1 SU-800のチャンネルを設定します。

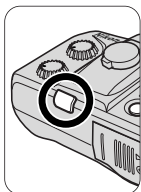
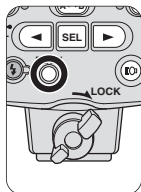
SU-800の［SEL］ボタンを押してチャンネル表示を点滅させ、［◀▶］ボタンを押して切り替えます。再度［SEL］ボタンを押すと点滅が点灯に変わり、その値が設定されます。

・チャンネルは1～4のうちの1つに設定します。

・［SEL］ボタンを押さない場合は、点滅を6回繰り返してから、その値が設定されます。

2 SB-R200のチャンネルを設定します。

SB-R200の［CHANNEL］(チャンネル)設定ダイヤルを回して、SU-800と同じチャンネルに設定します。

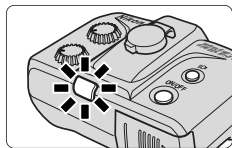
SB-R200のグループを設定します。

1 各SB-R200のグループを設定します。

それぞれのSB-R200の［GROUP］（グループ）設定ダイヤルを回して、AまたはBに設定します。設定されたSB-R200はSU-800の各グループの設定に連動して動作します。

構図を決め、撮影します。

1 構図を決め、撮影します。

SU-800とSB-R200の赤色レディーライトの点灯を確認し、シャッターをきります。

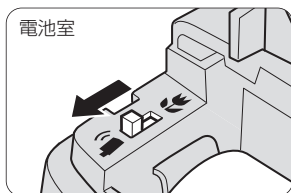
・テスト発光する場合は（☞P. 88）

☑発光直後に赤色レディーライトが点滅した場合

TTLモードでの撮影時に、SB-R200がフル発光して露出不足の可能性がある場合は、発光直後にSB-R200の赤色レディーライトが約3秒間点滅します（カメラのファインダー内およびSU-800のレディーライトは点滅しません）。
ISO感度を高くするか、絞り値を開放側に設定するなどして、撮影し直してください。

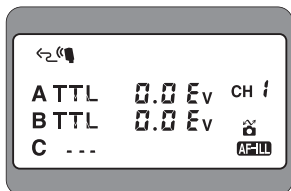
コマンダー撮影手順

SU-800をコマンダー機能に設定します。

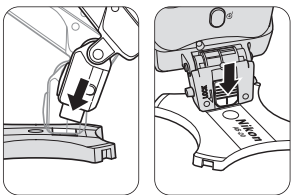
コマンダー撮影は、SU-800のコマンダー撮影機能を使って、リモート(補助灯)だけでライティングを行う撮影です。

1 **「クローズアップ撮影手順」の1と同様に、SU-800に電池を入れます。(☞P. 28)**

コマンダー撮影画面表示例

2 **コマンダー／クローズアップ選択スイッチでSU-800をコマンダー機能に設定します。**

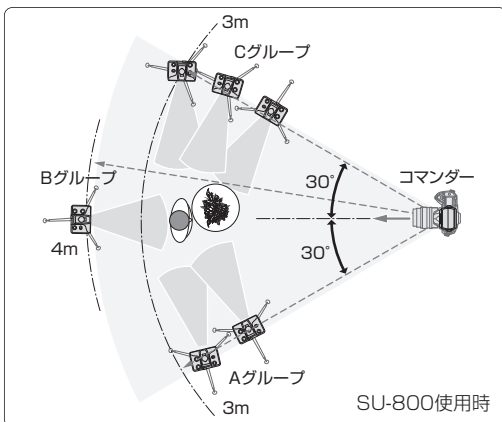
コマンダー／クローズアップ選択スイッチでクローズアップ機能とコマンダー機能を切り替えます。

3 **「クローズアップ撮影手順」の2と同様に、SU-800をカメラに取り付けます。(☞P. 29)**

SB-R200を設置します。

1 「クローズアップ撮影手順」の3と同様に、SB-R200に電池を入れます。(☞P. 30)

2 **SB-R200の取り付け脚をスピードライトスタンドAS-20の取付シューに図のように差し込み、ロックスイッチをスライドします。**

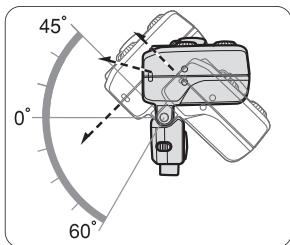
取り付け脚は向きが違うと挿入できません。

・ロックスイッチは止まるまでスライドさせ、赤い部分が見えなくなっていることを確認してください。

3 **SB-R200を設置します。**

SB-R200を配置できる範囲は、カメラ対向正面で約4mまで、両サイドで約3mまでが目安です。ただし、周囲の明るさや被写体の状況により、この距離は多少変化します。

・同じグループのSB-R200は、必ず一ヵ所にまとめて配置してください。

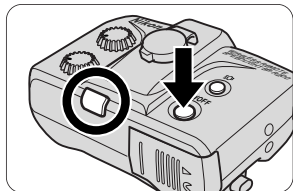
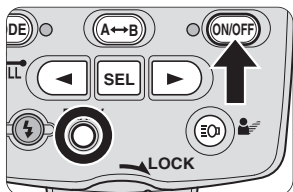
・SB-R200を配置できる範囲は、使用するコマンダー（カメラ、スピードライトなど）によって異なります。詳細は、それぞれの使用説明書をご覧ください。

・SB-R200の配置時の注意は「SB-R200の配置について(☞P. 108)」をご覧ください。

4 **SB-R200の発光部を設定します。**

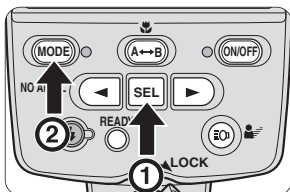
SB-R200の発光部は下方に60°、上方に45°回転できます。15°ごとにクリックストップがあります。

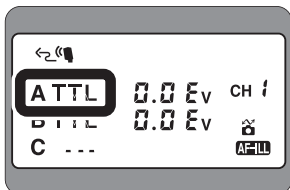
SB-R200をレンズ先端に装着するには

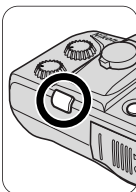
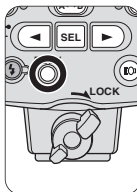
SB-R200は、アタッチメントリングSX-1を介してレンズ先端に装着できます。（☞P. 31）

カメラ、SU-800、SB-R200の電源を入れます。

1 **カメラ、SU-800、SB-R200の[ON/OFF]（電源）ボタンを押して、電源ONにします。**

カメラ、SU-800、SB-R200の赤色レディーライトの点灯を確認します。

SU-800でリモート（補助灯）の発光モードを設定します。

1 ［SEL］ボタンを押して各グループのモード表示を点滅させ、［MODE］（モード）ボタンを押して設定します。

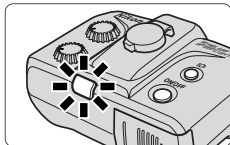
一般的な撮影には、TTLモードの使用をおすすめします。

SU-800とSB-R200のチャンネル、グループを設定します。

1 「クローズアップ撮影手順」の7、8と同様に、SU-800とSB-R200のチャンネル、グループを設定します。（☞P. 35、36）

構図を決め、撮影します。

1 構図を決め、撮影します。

SU-800とSB-R200の赤色レディーライトの点灯を確認し、シャッターをきります。

・テスト発光する場合は（☞P. 88）

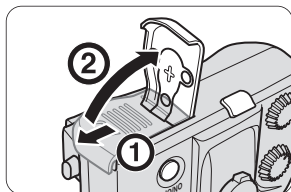
☑発光直後に赤色レディーライトが点滅した場合

TTLモードでの撮影時に、SB-R200がフル発光して露出不足の可能性がある場合は、発光直後にSB-R200の赤色レディーライトが約3秒間点滅します（カメラのファインダー内およびSU-800のレディーライトは点滅しません）。
撮影距離を短くするか、ISO感度を高くするか、絞り値を開放側に設定するなどして、撮影し直してください。

ニコン クローズアップスピードライト
リモートキットR1での
撮影手順

（ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）対応カメラとの組み合わせ）

ニコン クローズアップスピードライト リモートキットR1とコマンダー機能搭載CLS対応カメラとの組み合わせで可能な**ワイヤレスでのクローズアップ撮影**について、最も簡単な撮影手順を説明しています。

・クローズアップ撮影の詳細は（☞P. 65）

1 SB-R200に電池を入れます。
2 SB-R200をレンズに装着します。
3 カメラ、SB-R200の電源を入れます。
4 カメラのコマンダー機能を設定します。
5 SB-R200のチャンネル、グループを設定します。
6 構図を決め、撮影します。

リモートスピードライトSB-R200に電池を入れます。

1 電池ぶたを開けます。

2 電池を入れ、電池ぶたをスライドさせて閉じます。

使用できる電池は、3VのCR123Aリチウム電池です。

電池交換の目安

SB-R200が電池容量不足になった場合は、電源ONや発光後、緑色レディーライトが点滅します。

・電池を交換してください。

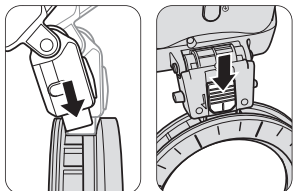
SB-R200をレンズに装着します。

1 アダプターリングをレンズの先端に取り付けます。

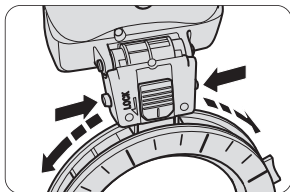
アダプターリングはフィルター径が52mm、62mm、67mm、72mm、77mmの5種類が用意されています。

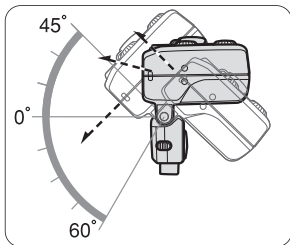
- アダプターリングは止まるまで回してください。
- 他のレンズフィルターとは併用できません。
- 図のレンズはAi AFマイクロニッコール105mm F2.8Dです。

2 アタッチメントリングSX-1の着脱ボタンを押し、そのままアダプターリングに装着し、指を離します。

- 必ずSX-1のニコンロゴ（☞P. 24）が下側にくるように装着してください。
- 両方の着脱ボタンを両手でしっかりと押して装着してください。
- SX-1が斜めに取り付けられていないことを確認してください。斜めに取り付けられている場合は、取り付け直してください。

3 SB-R200の取り付け脚をSX-1の取付溝に図のように差し込み、ロックスイッチをスライドします。

取り付け脚は向きが違うと挿入できません。

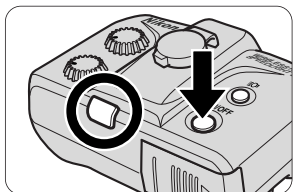
- ロックスイッチは止まるまでスライドさせ、赤い部分が見えなくなっていることを確認してください。

4 **SB-R200の取り付け脚のリリースボタンを押したままゆっくり動かし、希望の位置で指を離して固定します。**

SX-1は15°ごとにクリックストップがあります。

5 **SB-R200の発光部を設定します。**

SB-R200の発光部はレンズ光軸側に60°、反対側に45°回転できます。15°ごとにクリックストップがあります。

SB-R200をレンズから離して設置するには

SB-R200は、スピードライトスタンドAS-20を使用して、任意の場所に設置できます。（☞P. 107）

カメラ、SB-R200の電源を入れます。

1 カメラ、SB-R200の［ON/OFF］（電源）ボタンを押して、電源ONにします。

カメラ、SB-R200の赤色レディーライトの点灯を確認します。

カメラのコマンダー機能を設定します。

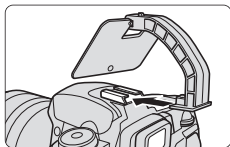
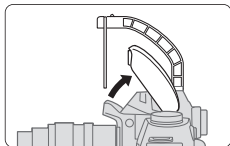
1 カメラのコマンダー機能を設定し、SB-R200の発光モードなどを設定します。

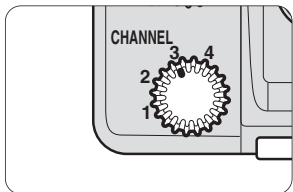
・必ず、使用するカメラの使用説明書をあわせてご覧ください。

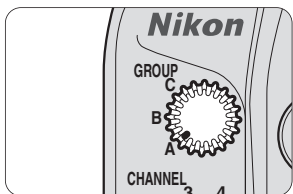
✓カメラの内蔵フラッシュのコマンダーモードの設定について

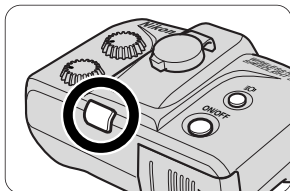
カメラ	内蔵フラッシュの発光モード	使用可能なチャンネル	使用可能なグループ
D700、D300シリーズ、D200、D90、D80	「TTL」、「M」、「– –（発光なし）」	1～4	A、B
D70シリーズ	（発光なし）	3	A

内蔵フラッシュ用赤外パネルSG-3IRの使い方

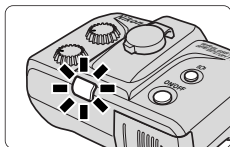
D70シリーズなどの内蔵フラッシュは、コマンダーとして使用すると、少量発光します。近距離撮影時には、この少量発光が画像に写り込むことがあります。画像への影響を防ぐには、SG-3IRをご使用ください。

1 SG-3IRをカメラのアクセサリーシューに装着します。

2 SG-3IRと内蔵フラッシュを図のようにセットします。

SB-R200のチャンネル、グループを設定します。

1 SB-R200の［CHANNEL］（チャンネル）設定ダイヤルを回して、チャンネルを設定します。

・D70シリーズ使用時は必ず3に設定してください。3以外に設定した場合は発光しません。

2 SB-R200の［GROUP］（グループ）設定ダイヤルを回して、グループを設定します。

・D70シリーズ使用時は必ずAに設定してください。A以外に設定した場合は発光しません。

構図を決め、撮影します。

1 構図を決め、撮影します。

SB-R200の赤色レディーライトの点灯を確認し、シャッターをきります。

・テスト発光する場合は（☞P. 88）

✔発光直後に赤色レディーライトが点滅した場合

TTLモードでの撮影時に、SB-R200がフル発光して露出不足の可能性がある場合は、発光直後にSB-R200の赤色レディーライトが約3秒間点滅します（カメラのファインダー内のレディーライトは点滅しません）。
ISO感度を高くするか、絞り値を開放側に設定するなどして、撮影し直してください。

ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800

機能と使い方

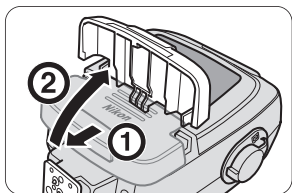
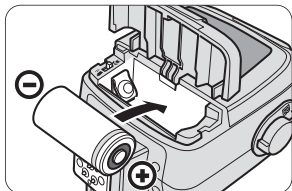
SU-800の機能と使い方を説明しています。

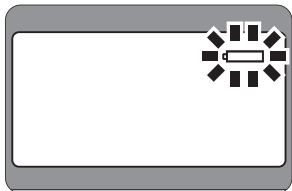
1 コマンダーSU-800で可能な撮影

SU-800では、以下の撮影ができます。撮影の詳細は、それぞれの該当ページをご覧ください。

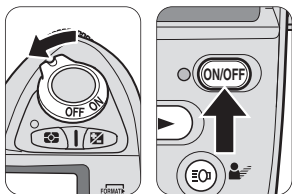
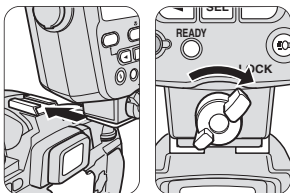
使用可能な撮影	組み合わせるカメラ	使用可能なスピードライト
クローズアップ撮影（☞P. 65）	CLS対応カメラ、CLSに対応していないカメラ＊1	SB-R200
コマンダー撮影（☞P. 79）	CLS対応カメラ	SB-R200またはSB-900＊2、SB-800＊2、SB-600＊2

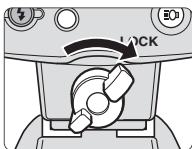
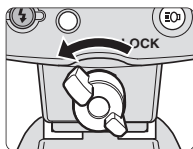
＊1：別売のTTL調光コードSC-30が必要です。（☞P. 123）
注意：CLS対応カメラでは、TTL調光コードSC-30（別売）は不要です。
＊2：SB-900、SB-800、SB-600ではリピーティング発光撮影が可能です。（☞P. 93）

2 SU-800の使い方

1 **電池ぶたを開けます。**

2 **電池を入れ、電池ぶたをスライドさせて閉じます。**

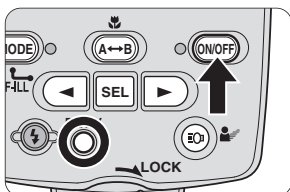
使用できる電池は、3VのCR123Aリチウム電池です。

電池交換の目安

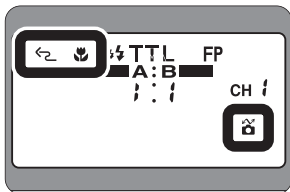
SU-800は電源ONや発光後、約30秒が経過してもレディーライトが点灯しない場合は、電池交換表示が点滅します。

・電池を交換してください。

3 **カメラ、SU-800の電源をOFFにします。**

4 SU-800のロックレバーを左に回してから、取り付け脚をアクセサリーシューに差し込み、ロックレバーを右に回します。

✔ロックレバーについて

ロックする

ロックを解除する

ロックする際には、ロックレバーが止まるまで右方向に約90°回します。ロックを解除する際には、左方向に止まるまで回します。

5 カメラ、SU-800の［ON/OFF］（電源）ボタンを押して、電源ONにします。

SU-800のレディーライトの点灯を確認します。

6 SU-800の表示を確認します。

SU-800でワイヤレス送信表示、クローズアップ機能表示、CLS対応カメラ接続表示を確認します。

SU-800の連動オフ、タイマーオフ機能

SU-800をTTLモードでの撮影が可能なカメラに装着時には、カメラに連動して待機状態になります。**(連動オフの状態)**

また、SU-800をカメラに接続してない場合は、SU-800を操作しない状態が約40秒以上続くと待機状態になります。**(タイマーオフの状態)**

・待機状態時には、表示パネルには何も表示されません。

・連動オフまたはタイマーオフ中は、以下の操作を行うと電源ONになります。

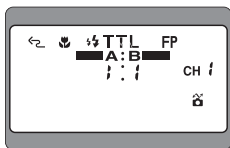
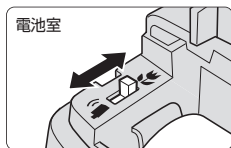
SU-800の［ON/OFF］(電源) ボタンを押す

装着カメラの電源をONにする

3 SU-800の設定機能

SU-800は、以下の設定が可能です。

クローズアップ機能とコマンダー機能の切り替え

コマンダー／クローズアップ選択スイッチによりクローズアップ機能とコマンダー機能を切り替えます。

クローズアップ撮影時の画面表示例

コマンダー撮影時の画面表示例

各撮影時の設定項目

クローズアップ撮影時（☞P. 65）

・発光モード（TTL/M）
・グループ（A、B、C）
・A、Bグループの発光／発光禁止
・A、Bグループの光量比（TTLモード時）
・調光補正量（TTLモード時）
・マニュアル発光量（Mモード時）
・チャンネル（1、2、3、4）

コマンダー撮影時（☞P. 79）

・リモート（補助灯）の発光モード（TTL/絞り連動外部自動調光（AA）/M/ー（発光禁止）/RPT（リピーティング発光））
・グループ（A、B、C）
・調光補正量（TTLモード、絞り連動外部自動調光（AA）モード時）
・マニュアル発光量（Mモード時）
・マニュアル発光量、周波数、発光回数（RPTモード時）
・チャンネル（1、2、3、4）

ワイヤレスリモートスピードライトSB-R200の 機能と使い方

SB-R200の機能と使い方を説明しています。

1 リモートスピードライトSB-R200で可能な撮影

SB-R200では、以下の撮影ができます。撮影の詳細は、それぞれの該当ページをご覧ください。

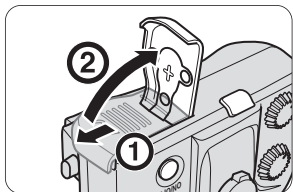
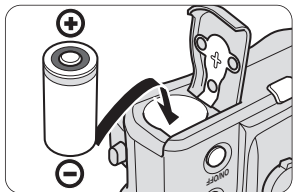
使用可能な撮影	組み合わせるカメラ、スピードライト
クローズアップ撮影（☞P. 65）	CLS対応カメラ、CLSに対応していないカメラ*[1]、SU-800
コマンダー撮影（☞P. 79）	コマンダー機能搭載CLS対応カメラまたはSU-800、SB-900、SB-800

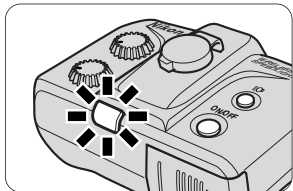
＊1：別売のTTL調光コードSC-30が必要です。（☞P. 123）

注意：CLS対応カメラでは、TTL調光コードSC-30（別売）は不要です。

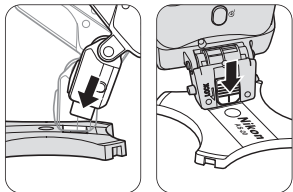
✔SB-900、SB-800のコマンダー撮影について

コマンダー撮影時でSB-900、SB-800をマスター（主灯）にセットして発光を消灯（**- - -** を選択）させても、少量発光します。近距離撮影時には、この少量発光が被写体に影響を与える場合があります。この場合は、マスター（主灯）の影響がなくなるまでマスター（主灯）のフラッシュヘッドを上方または左右方向にバウンスさせて調節してください。

2 SB-R200の使い方

1 **電池ぶたを開けます。**

2 **電池を入れ、電池ぶたをスライドさせて閉じます。**

使用できる電池は、3VのCR123Aリチウム電池です。

電池交換の目安

SB-R200が電池容量不足になった場合は、電源ONや発光後、緑色レディーライトが点滅します。

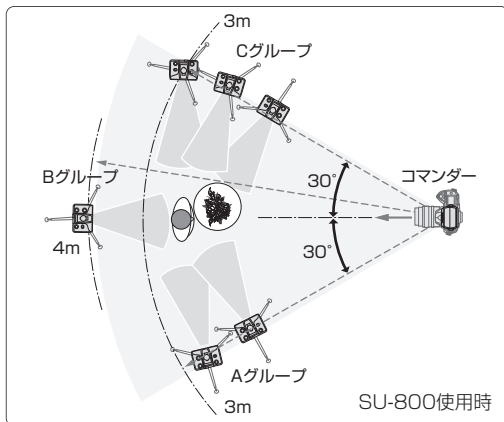
・電池を交換してください。

3 **SB-R200の取り付け脚をスピードライトスタンドAS-20の取付シューに図のように差し込み、ロックスイッチをスライドします。**

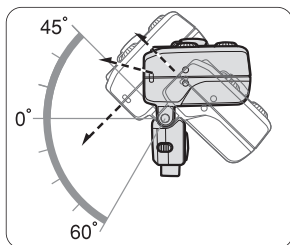
取り付け脚は向きが違うと挿入できません。

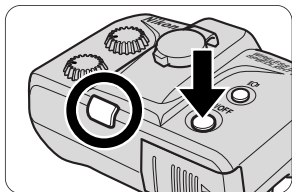
・ロックスイッチは止まるまでスライドさせ、赤い部分が見えなくなっていることを確認してください。

SB-R200をレンズ先端に装着するには

SB-R200は、アタッチメントリングSX-1を介してレンズ先端に装着できます。(☞P. 31)

4 SB-R200を設置します。

SB-R200を配置できる範囲は、使用するコマンダー機能搭載カメラまたはスピードライトSB-900、SB-800によって異なります。詳細は、それぞれの使用説明書をご覧ください。

- 同じグループのSB-R200は、必ず一ヵ所にまとめて配置してください。
- SB-R200の配置時の注意は「SB-R200の配置について（☞P. 108）」をご覧ください。

5 SB-R200の発光部を設定します。

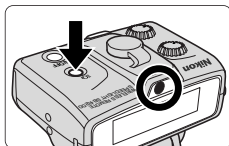
SB-R200の発光部は下方に60°、上方に45°回転できます。15°ごとにクリックストップがあります。

6 カメラまたはSB-900、SB-800、SU-800、SB-R200の［ON/OFF］（電源）ボタンを押して、電源ONにします。

カメラまたはSB-900、SB-800、SU-800、SB-R200の赤色レディーライトの点灯を確認します。

3 SB-R200の設定機能

SB-R200は、以下の設定が可能です。

ターゲットライトの点灯／消灯

ターゲットライトボタンによりターゲットライトの点灯／消灯を切り替えます。（☞P. 90）

設定項目

・グループ（A、B、C）
・チャンネル（1、2、3、4）

クローズアップ撮影の詳細と撮影手順

（ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）対応カメラとの組み合わせ）

CLS対応カメラとの組み合わせで可能な**ワイヤレスでのクローズアップ撮影**の詳細と撮影手順を説明しています。作例写真については、別冊の「クローズアップスピードライト撮影作例集」をあわせてご覧ください。
カメラ側の機能や設定は、必ずカメラの使用説明書をご覧ください。

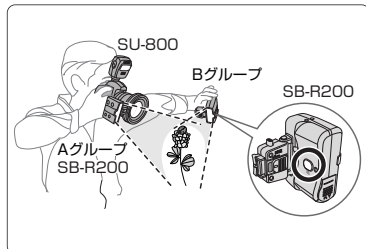
1 クローズアップ撮影でできること

CLS対応カメラとSU-800、SB-R200との組み合わせにより、ワイヤレスでのクローズアップ撮影が簡単にできます。
SB-R200はレンズ先端に装着できるほか、スピードライトスタンドAS-20でカメラから離して設置したり、手持ちでの撮影も容易です。これまでになかった自由なライティングのクローズアップ撮影をお楽しみください。

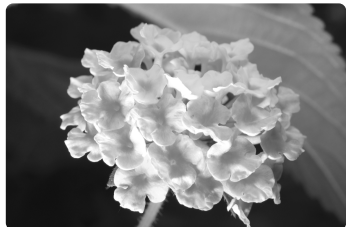
作例集-A

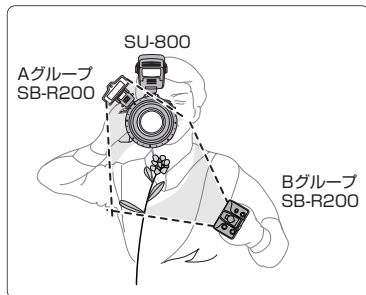
A-1

2灯撮影（1灯はレンズ先端に装着、1灯は手持ち）
レンズ先端に装着したSB-R200によって被写体の色彩をあざやかに描写するとともに、手持ちのSB-R200をサブとして左側面から当てて、不要な影を消し、主役のてんとう虫を引き立てました。

設置例イラスト

・カメラ：D70
・レンズ：AI AFマイクロニッコール105mm F2.8D
・Aグループ：SB-R200（TTL）
・Bグループ：SB-R200（TTL）
※「クローズアップスピードライト撮影作例集」のA-2、A-3、A-4もA-1と同様の撮影事例です。

作例集-B

B-1

2灯撮影（1灯はレンズ先端に装着、1灯は手持ち）
手持ちのSB-R200をメインとして被写体の左下方からやや強めに当て、サブとしてレンズ先端に装着したSB-R200を右上方から使用。小さな花びらの輪郭が強調され、柔らかな質感を引き出せました。

設置例イラスト

・カメラ：D70
・レンズ：AI AFマイクロニッコール60mm F2.8D
・Aグループ：SB-R200（TTL）
・Bグループ：SB-R200（TTL）
※「クローズアップスピードライト撮影作例集」のB-2、B-3、B-4もB-1と同様の撮影事例です。

作例集-E

E-3

2灯撮影（1灯はレンズ先端に装着、1灯は離して壁にバウンス）

ネットオークションに出品するために、子供服や手作りの小物などの生地の質感や模様の細部の描写を目的にしました。左右のスピードライトの光量の違いから生まれる光と影が立体感を作り出し、質感をリアルに再現できました。

・カメラ：D70
・レンズ：AF-S DXズームニッコールED
　　　　18-70mm F3.5-4.5G（IF）

・Aグループ：SB-R200（TTL）
・Bグループ：SB-R200（TTL）
※「クローズアップスピードライト撮影作例集」のE-4はE-3と同様の撮影事例です。

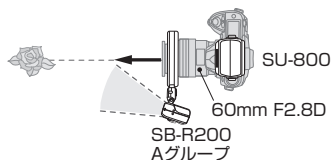
作例集-F

F-4

F-5

1灯撮影

撮影距離の違いによるライティング効果の比較例です。F-4は被写体までの距離が約10cm、F-5は約70cmです。距離が短いほどライティング効果が大きくなり、距離が長いほど影が出にくくなります。

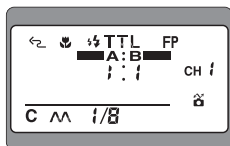
・カメラ：D70
・レンズ（F-4）：Ai AFマイクロニッコール60mm F2.8D
・レンズ（F-5）：Ai AFマイクロニッコールED 200mm F4D（IF）
・Aグループ：SB-R200（TTL）

2 クローズアップ撮影の概要

クローズアップ撮影とは

CLS対応カメラに装着したSU-800が、SB-R200をワイヤレスで発光制御するクローズアップ撮影ができます。SB-R200をA、Bの2つのグループに分けて制御する2灯発光クローズアップ撮影と、A、B、Cの3グループに分けて制御する3灯発光クローズアップ撮影があります。

2灯発光と3灯発光の切替え方

［SEL］ボタンを約2秒間押し続けると、2灯発光と3灯発光が切り替ります。

2灯発光クローズアップ
撮影画面例

3灯発光クローズアップ
撮影画面例

セットの仕方

「ニコン クローズアップスピードライト コマンダーキットR1C1でのクローズアップ撮影手順」(☞P. 28)と同様にして、SU-800とSB-R200をセットします。

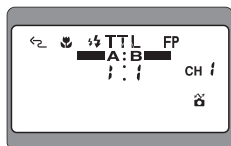
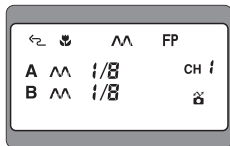
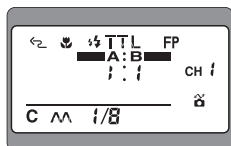
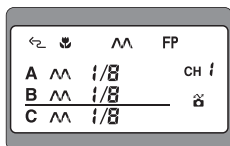
設定項目

クローズアップ撮影では、以下の項目が設定できます。

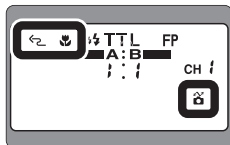
・発光モード（TTL/M）
・グループ（A、B、C）
・A、Bグループの発光／発光禁止
・A、Bグループの光量比（TTLモード時）
・調光補正量（TTLモード時）
・マニュアル発光量（Mモード時）
・チャンネル（1、2、3、4）

発光モード

クローズアップ撮影では、TTLとM（マニュアル）の2つの発光モードが使えます。SU-800の［MODE］（モード）ボタンを押すごとに、使用できるモードが切り替り表示されます。

・使用できる発光モードはカメラやレンズの組み合わせなどによって異なります。
・発光モードはA、Bグループ共通になります。
・3灯発光クローズアップ撮影では、A、BグループはTTLとM（マニュアル）が使えます。Cグループは M（マニュアル）に固定されます。

2灯発光クローズアップ撮影
TTLモード時の画面例

2灯発光クローズアップ撮影
M（マニュアル）モード時の画面例

3灯発光クローズアップ撮影
TTLモード時の画面例

3灯発光クローズアップ撮影
M（マニュアル）モード時の画面例

3 クローズアップ撮影手順

2灯発光撮影手順

1 カメラ、SU-800、SB-R200の［ON/OFF］（電源）ボタンを押して、電源ONにします。

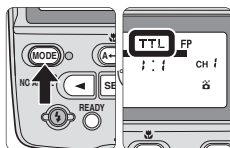
・SU-800とSB-R200の赤色レディーライトの点灯を確認します。

・SU-800でワイヤレス送信表示、クローズアップ機能表示、CLS対応カメラ接続表示を確認します。

2灯発光クローズアップ
画面表示例

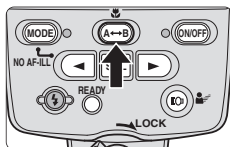
2 2灯発光を選択します。

［SEL］ボタンを約2秒間押し続けると、2灯発光クローズアップ撮影と3灯発光クローズアップ撮影が切り替ります。

・初期設定は2灯発光クローズアップ撮影です。

3 SU-800で発光モードを設定します。

［MODE］（モード）ボタンを押して、発光モードをTTLまたはM（マニュアル）に設定します。

・初期設定はTTLです。

・発光モードはA、Bグループ共通です。

4 SB-R200の発光を設定します。

［A⟷B］選択ボタンを押して、AまたはBグループの発光／発光禁止を切り替えます。

・発光禁止のグループの表示は消灯します。

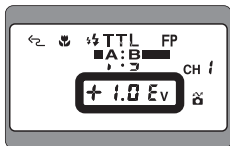
・2灯発光クローズアップ撮影では、A、B両方を発光禁止にすることはできません。

・発光禁止に設定すると、TTLモード時の光量比は無効になり、調光補正量は保持されます。

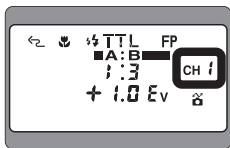
・発光禁止に設定しても、M（マニュアル）モード時のマニュアル発光量は保持されます。

5 SB-R200のA、Bグループの光量比を設定します。(TTLモード時)

［SEL］ボタンを押して光量比表示を点滅させ、［◀▶］ボタンを押して切り替えます。再度［SEL］ボタンを押すと点滅が点灯に変わり、その値が設定されます。

- 光量比は8：1～1：8に設定できます。
- 光量比を変更すると光量比表示が変化します。
- ［◀▶］ボタンを押し続けると早送りされます。
- ［SEL］ボタンを押さない場合は、点滅を6回繰り返してから、その値が設定されます。

6 SB-R200の調光補正量を設定します。(TTLモード時)

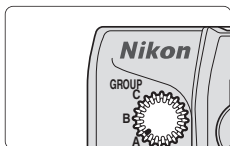
［SEL］ボタンを押して調光補正量を点滅させ、［◀▶］ボタンを押して切り替えます。再度［SEL］ボタンを押すと点滅が点灯に変わり、その値が設定されます。

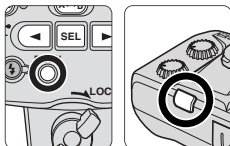
- 設定値はA、Bグループ共通です。
- ＋3.0～－3.0の範囲で、1/3段ステップで設定できます。
- 表示は、1/3は0.3、2/3は0.7と表示されます。
- ［◀▶］ボタンを押し続けると早送りされます。
- ［SEL］ボタンを押さない場合は、点滅を6回繰り返してから、その値が設定されます。

7 SU-800のチャンネルを設定します。

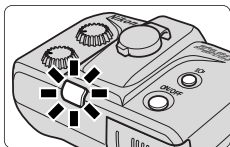
SU-800とSB-R200の交信チャンネルを設定します。［SEL］ボタンを押してチャンネル表示を点滅させ、［◀▶］ボタンを押して切り替えます。再度［SEL］ボタンを押すと点滅が点灯に変わり、その値が設定されます。

- チャンネルは全グループ共通で、1〜4のうちの1つに設定します。
- ［SEL］ボタンを押さない場合は、点滅を6回繰り返してから、その値が設定されます。

8 SB-R200のチャンネルを設定します。

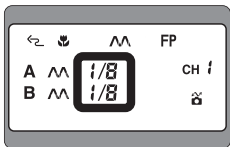
SB-R200の［CHANNEL］(チャンネル)設定ダイヤルを回して、SU-800と同じチャンネルに設定します。

9 SB-R200のグループを設定します。

SB-R200の［GROUP］(グループ)設定ダイヤルを回して設定します。設定されたSB-R200はSU-800の各グループの設定に連動して動作します。

10 構図を決め、撮影します。

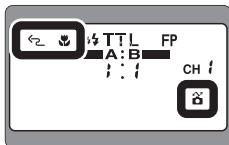
赤色レディーライトを確認し、シャッターをきります。

- テスト発光する場合は(☞P. 88)

発光直後に赤色レディーライトが点滅した場合

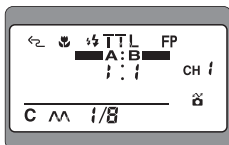
TTLモードでの撮影時に、SB-R200がフル発光して露出不足の可能性がある場合は、発光直後にSB-R200の赤色レディーライトが約3秒間点滅します(カメラのファインダー内およびSU-800のレディーライトは点滅しません)。
ISO感度を高くするか、絞り値を開放側に設定するなどして、撮影し直してください。

M(マニュアル)モード時はA、Bグループのマニュアル発光量を設定します。

[SEL]ボタンを押してマニュアル発光量を点滅させ、[◀▶]ボタンを押して切り替えます。再度[SEL]ボタンを押すと点滅が点灯に変わり、その値が設定されます。

- マニュアル発光量はA、Bグループで別々に設定できます。
- 1/1～1/64の範囲で、1段ステップで設定できます。(初期設定値は1/8)
- [◀▶]ボタンを押し続けると早送りされます。
- [SEL]ボタンを押さない場合は、点滅を6回繰り返してから、その値が設定されます。

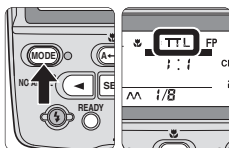
3灯発光撮影手順

1 カメラ、SU-800、SB-R200の［ON/OFF］(電源) ボタンを押して、電源ONにします。

・SU-800とSB-R200の赤色レディーライトの点灯を確認します。

・SU-800でワイヤレス送信表示、クローズアップ機能表示、CLS対応カメラ接続表示を確認します。

3灯発光クローズアップ
画面表示例

2 3灯発光を選択します

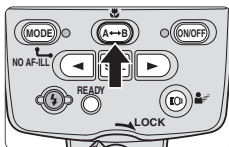
［SEL］ボタンを約2秒間押し続けると、2灯発光クローズアップ撮影と3灯発光クローズアップ撮影が切り替ります。

・初期設定は2灯発光クローズアップ撮影です。

3 SU-800で発光モードを設定します。

［MODE］(モード) ボタンを押して、発光モードをTTLまたはM (マニュアル) に設定します。

・初期設定はTTLです。

・発光モードはA、Bグループ共通です。

・CグループはM (マニュアル) に固定されます。

4 SB-R200の発光を設定します。

［A←→B］選択ボタンを押して、AまたはBグループの発光／発光禁止を切り替えます。

・発光禁止のグループの表示は消灯します。

・A、B両方を発光禁止にすることも可能です。Cグループを発光禁止にすることはできません。

・発光禁止に設定すると、TTLモード時の光量比は無効になり、調光補正量は保持されます。

・発光禁止に設定しても、M（マニュアル）モード時のマニュアル発光量は保持されます。

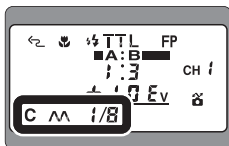
5 SB-R200のA、Bグループの光量比を設定します。(TTLモード時)

［SEL］ボタンを押して光量比表示を点滅させ、［◀▶］ボタンを押して切り替えます。再度［SEL］ボタンを押すと点滅が点灯に変わり、その値が設定されます。

- 光量比は8：1〜1：8に設定できます。
- 光量比を変更すると光量比表示が変化します。
- ［◀▶］ボタンを押し続けると早送りされます。
- ［SEL］ボタンを押さない場合は、点滅を6回繰り返してから、その値が設定されます。

6 SB-R200の調光補正量を設定します。(TTLモード時)

［SEL］ボタンを押して調光補正量を点滅させ、［◀▶］ボタンを押して切り替えます。再度［SEL］ボタンを押すと点滅が点灯に変わり、その値が設定されます。

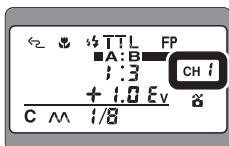
- 設定値はA、Bグループ共通です。
- ＋3.0〜－3.0の範囲で、1/3段ステップで設定できます。
- 表示は、1/3は0.3、2/3は0.7と表示されます。
- ［◀▶］ボタンを押し続けると早送りされます。
- ［SEL］ボタンを押さない場合は、点滅を6回繰り返してから、その値が設定されます。

7 Cグループのマニュアル発光量を設定します。

［SEL］ボタンを押してCグループのマニュアル発光量を点滅させ、［◀▶］ボタンを押して切り替えます。再度［SEL］ボタンを押すと点滅が点灯に変わり、その値が設定されます。

・マニュアル発光量はA、B、Cグループで別々に設定できます。

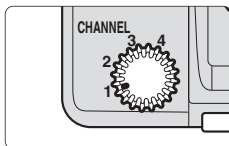
・1/1～1/64の範囲で、1段ステップで設定できます。（初期設定値は1/8）

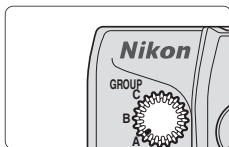
・［◀▶］ボタンを押し続けると早送りされます。

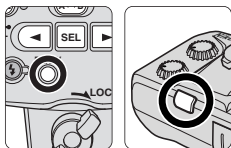
・［SEL］ボタンを押さない場合は、点滅を6回繰り返してから、その値が設定されます。

8 SU-800のチャンネルを設定します。

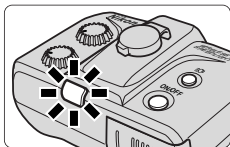
SU-800とSB-R200の交信チャンネルを設定します。［SEL］ボタンを押してチャンネル表示を点滅させ、［◀▶］ボタンを押して切り替えます。再度［SEL］ボタンを押すと点滅が点灯に変わり、その値が設定されます。

・チャンネルは全グループ共通で、1～4のうちの1つに設定します。

・［SEL］ボタンを押さない場合は、点滅を6回繰り返してから、その値が設定されます。

9 SB-R200のチャンネルを設定します。

SB-R200の［CHANNEL］（チャンネル）設定ダイヤルを回して、SU-800と同じチャンネルに設定します。

10 SB-R200のグループを設定します。

SB-R200の［GROUP］（グループ）設定ダイヤルを回して設定します。設定されたSB-R200はSU-800の各グループの設定に連動して動作します。

11 構図を決め、撮影します。

赤色レディーライトを確認し、シャッターをきります。

・テスト発光する場合は（☞P. 88）

☑発光直後に赤色レディーライトが点滅した場合

TTLモードでの撮影時に、SB-R200がフル発光して露出不足の可能性がある場合は、発光直後にSB-R200の赤色レディーライトが約3秒間点滅します（カメラのファインダー内およびSU-800のレディーライトは点滅しません）。
ISO感度を高くするか、絞り値を開放側に設定するなどして、撮影し直してください。

コマンダー撮影の詳細と撮影手順

（ニコンクリエイティブライティングシステム（CLS）
対応カメラとの組み合わせ）

CLS対応カメラとの組み合わせで可能な**ワイヤレスでのコマンダー撮影**の詳細と撮影手順を説明しています。
作例写真については、別冊の「クローズアップスピードライト撮影作例集」
をあわせてご覧ください。
カメラ側の機能や設定は、必ずカメラの使用説明書をご覧ください。

1 コマンダー撮影でできること

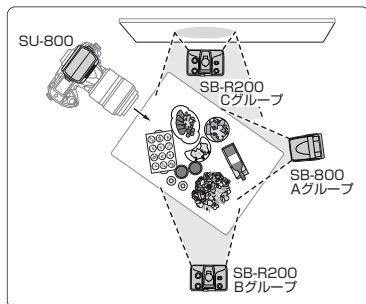
コマンダー撮影とは、ライティングをリモート(補助灯)のみで行う撮影です。リモート(補助灯)の配置を変えることで、さまざまな光と影の演出が楽しめます。

作例集-D

D-1

3灯撮影

テーブルセッティング全体の色と質感を表現するため、3方向からの照明を用いました。メインとなるSB-800を左上後方から強めに当て、その影を左右両側からのSB-R200で消しています。光が全体に回っているので、画面周辺部の料理も色鮮やかに再現できました。

設置例イラスト

・カメラ：D70
・レンズ：AF-S DXズームニッコールED 18-70mm F3.5-4.5G(IF)
・Aグループ：SB-800(TTL)
・Bグループ：SB-R200(TTL)
・Cグループ：SB-R200(M)

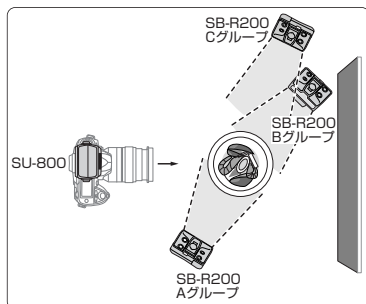
※「クローズアップスピードライト撮影作例集」のD-2は内蔵フラッシュ1灯での撮影事例です。

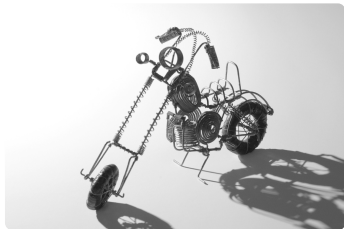
作例集-D

D-3

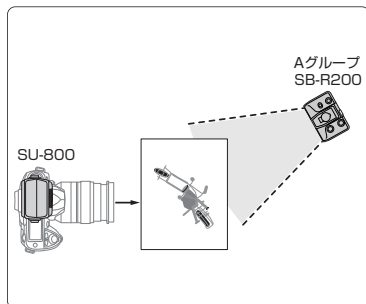
3灯撮影

左右からの2灯のトップライトで、皿の中の料理を色も形もきれいに再現しました。さらに、立ち上る湯気を描写するために、バックを落とし、左後方からSB-R200を弱めに当てました。

設置例イラスト

・カメラ：D70
・レンズ：Ai AFマイクロニッコール105mm F2.8D
・Aグループ：SB-R200(TTL)
・Bグループ：SB-R200(TTL)
・Cグループ：SB-R200(M)

作例集-F

1灯撮影（カメラから離して設置）

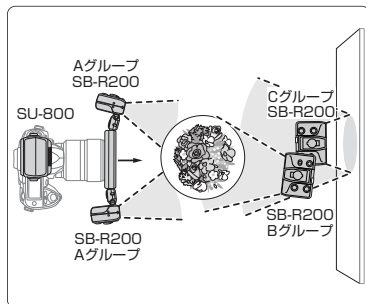
一方向からのスピードライト光で意図的に強い影をつけ、小さな被写体の立体感を演出しました。カメラに装着したスピードライトでは、どうしても平板な印象を免れませんが、SB-R200なら自由に位置を変えられるので、いろいろな光と影の演出が可能です。

設置例イラスト

・カメラ：D70
・レンズ：AF-S DXズームニッコールED
　　　　18-70mm F3.5-4.5G（IF）
・Aグループ：SB-R200（TTL）
※「クローズアップスピードライト撮影作例集」の F-2はF-1と同様の撮影事例です。F-3は内蔵フラッシュ1灯での撮影事例です。

作例集-G

3灯撮影

立体的な被写体の質感と色彩を再現するために、真上からの1灯をメインに、正面と後方からの光を加えたライティングです。レンズの左右に装着したSB-R200でめざわりな影を消しました。また、後方からのSB-R200はバウンスさせて、輪郭をくっきりさせるとともに背景を明るく演出しています。

設置例イラスト

・カメラ：D70
・レンズ：AFマイクロニッコール105mm
　　　　F2.8D
・Aグループ：SB-R200（TTL）
・Bグループ：SB-R200（TTL）
・Cグループ：SB-R200（M）
※「クローズアップスピードライト撮影作例集」の G-2はA、Bの2グループでの撮影事例です。G-3はAグループのみでの撮影事例です。

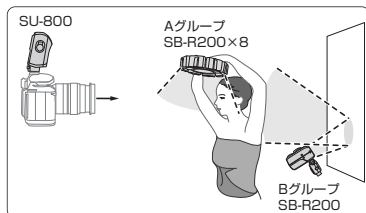
2 コマンダー撮影の概要

作例集-J

J-1

2灯撮影

アタッチメントリングSX-1にSB-R200を8個装着したリング照明を使用した作画例です。後方のSB-R200をバウンスさせて、背景にも不思議な雰囲気を演出しました。

設置例イラスト

・カメラ：D70
・レンズ：AF-S DXズームニッコールED 18-70mm F3.5-4.5G（IF）
・Aグループ：SB-R200（TTL）×8個
・Bグループ：SB-R200（TTL）

※「クローズアップスピードライト撮影作例集」のJ-3、J4はJ-1と同様の撮影事例です。J-2は1灯での撮影事例です。

コマンダーとリモート（補助灯）

コマンダー撮影は、CLS対応カメラと以下のコマンダー、リモート（補助灯）の組み合わせでできます。コマンダーがA、B、Cの3つのグループのリモート（補助灯）をワイヤレスで発光制御します。

コマンダーとして使用できるもの

・ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800
・コマンダー機能搭載CLS対応カメラ
・スピードライトSB-900、SB-800

リモート（補助灯）として使用できるもの

・ワイヤレスリモートスピードライトSB-R200
・スピードライトSB-900、SB-800、SB-600

✔SB-900、SB-800のコマンダー撮影について

コマンダー撮影時でSB-900、SB-800をマスター（主灯）にセットして発光を消灯（**- - -**を選択）させても、少量発光します。近距離撮影時には、この少量発光が被写体に影響を与える場合があります。この場合は、マスター（主灯）の影響がなくなるまでマスター（主灯）のフラッシュヘッドを上方または左右方向にバウンスさせて調節してください。

コマンダー撮影時のご注意

コマンダー撮影時の使用可能な機能、各項目の設定方法などは、使用するカメラやリモート（補助灯）の組み合わせによって異なります。
必ずご使用になるスピードライトの使用説明書をあわせてお読みください。

セットの仕方

「ニコン クローズアップスピードライト コマンダーキットR1C1でのコマンダー撮影手順」(☞P. 38)と同様にして、コマンダーとリモート(補助灯)を配置します。

設定項目

コマンダー撮影では、以下の項目が設定できます。

- リモート(補助灯)の発光モード(TTL/絞り連動外部自動調光(AA)/M/ー(発光禁止)/RPT(リピーティング発光))
- グループ(A、B、C)
- 調光補正量(TTLモード、絞り連動外部自動調光(AA)モード時)
- マニュアル発光量(Mモード時)
- マニュアル発光量、周波数、発光回数(RPTモード時)
- チャンネル(1、2、3、4)

発光モード

コマンダー撮影では、TTL/絞り連動外部自動調光(AA)/M/ー(発光禁止)/RPT(リピーティング発光)の5つの発光モードが使用可能です。

- 発光モードはグループ別に設定できます(RPTを除く)。
- 使用できる発光モードはカメラやリモート(補助灯)の組み合わせによって異なります。

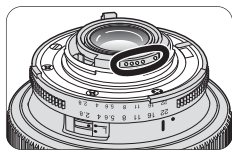
SU-800使用時のリモート(補助灯)の使用可能発光モード

発光モード	SB-R200	SB-900/SB-800	SB-600
TTL	○	○	○
絞り連動外部自動調光(AA)＊1	×	○	×
M	○	○	○
ー	○	○	○

＊1：絞り連動外部自動調光モードは、CPUレンズ使用時でリモート(補助灯)にSB-900、SB-800を使用時のみ設定可能です。(SB-R200、SB-600は絞り連動外部自動調光モード受信時に警告表示します)

リピーティング発光撮影について

SU-800使用時は、SB-900またはSB-800、SB-600との組み合わせにより、リピーティング(RPT)発光撮影が可能です。(☞P. 93)

レンズについて

ニッコールレンズには、「CPU内蔵ニッコール」と「CPU内蔵ニッコール以外」のレンズがあります。本書では、「CPU内蔵ニッコール」を「CPUレンズ」、「CPU内蔵ニッコール以外」を「非CPUレンズ」と記載しています。CPUレンズにはCPU信号接点があります。

3 コマンダー撮影手順

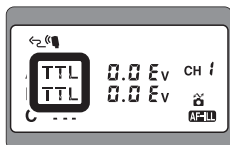
1 カメラ、コマンダー、リモート(補助灯)の[ON/OFF](電源)ボタンを押して、電源ONにします。

・赤色レディーライトの点灯で充電完了を確認します。
・ワイヤレス送信表示、コマンダー機能表示、CLS対応カメラ接続表示を確認します。

コマンダー撮影画面表示例

2 コマンダー機能を設定します。

コマンダーのコマンダー機能を設定します。

・[SEL] ボタンを約2秒間押し続けると、コマンダー撮影とリピーティング発光撮影が切り替ります。

3 リモート(補助灯)の発光モードを設定します。

リモート(補助灯)の発光モードをTTL/絞り連動外部自動調光(AA)/M/―(発光禁止)に設定します。

・[SEL] ボタンを押して各グループのモード表示を点滅させ、[MODE](モード)ボタンを押して設定します。

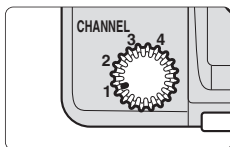
4 リモート(補助灯)の調光補正量を設定します。(TTL/絞り連動外部自動調光(AA)モード時)

リモート(補助灯)の調光補正量を+3.0～−3.0の範囲で、1/3段ステップで設定します。

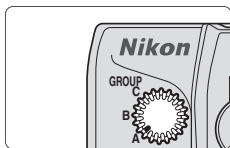
・調光補正量はグループ別に設定できます。
・[SEL] ボタンを押して設定するグループの調光補正量を点滅させ、[◀▶] ボタンを押して切り替えます。再度 [SEL] ボタンを押すと点滅が点灯に変わり、その値が設定されます。
・表示は、1/3は0.3、2/3は0.7と表示されます。
・[◀▶] ボタンを押し続けると早送りされます。
・[SEL] ボタンを押さない場合は、点滅を6回繰り返してから、その値が設定されます。

5 コマンダーのチャンネルを設定します。

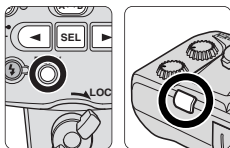
コマンダーとリモート（補助灯）が交信するチャンネルを設定します。

- チャンネルはA、B、Cグループ共通で、1～4のうちの1つに設定します。
- ［SEL］ボタンを押してチャンネル表示を点滅させ、［◀▶］ボタンを押して切り替えます。再度［SEL］ボタンを押すと点滅が点灯に変わり、その値が設定されます。
- ［SEL］ボタンを押さない場合は、点滅を6回繰り返してから、その値が設定されます。

6 リモート（補助灯）のチャンネルを設定します。

リモート（補助灯）のチャンネルは、1～4のうちの1つでコマンダーと同じに設定します。

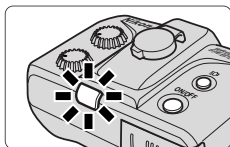
- D70シリーズ使用時は必ず3に設定してください。3以外に設定した場合は発光しません。
- SB-R200使用時は［CHANNEL］（チャンネル）設定ダイヤルを回して設定します。
- SB-900、SB-800、SB-600を使用時は、それぞれの使用説明書をご覧ください。

7 リモート（補助灯）のグループを設定します。

リモート（補助灯）のグループをA、B、Cに設定します。設定されたリモート（補助灯）はコマンダーの各グループの設定に連動して動作します。

- D700、D300シリーズ、D200、D90、D80使用時は必ずA、Bに設定してください。A、B以外に設定した場合は発光しません。
- D70シリーズ使用時は必ずAに設定してください。A以外に設定した場合は発光しません。
- SB-R200使用時は［GROUP］（グループ）設定ダイヤルを回して設定します。
- SB-900、SB-800、SB-600を使用時は、それぞれの使用説明書をご覧ください。

8 構図を決め、撮影します。

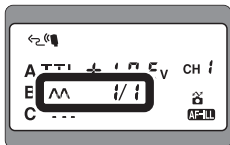
赤色レディーライトを確認し、シャッターをきります。

・テスト発光する場合は（☞P. 88）

発光直後に赤色レディーライトが点滅した場合

TTLモードでの撮影時に、スピードライトがフル発光して露出不足の可能性がある場合は、発光直後にフル発光したスピードライトの赤色レディーライトが約3秒間点滅します（カメラのファインダー内およびSU-800のレディーライトは点滅しません）。

撮影距離を短くするか、ISO感度を高くするか、絞り値を開放側に設定するなどして、撮影し直してください。

・リモート（補助灯）にSB-900、SB-800、SB-600を使用時は、SB-900、SB-800、SB-600の赤色レディーライトが約3秒間点滅し、TTL調光アンダー量が表示されます（詳細はご使用のスピードライトの使用説明書をご覧ください）。

M（マニュアル）モード時はマニュアル発光量を設定します。

・マニュアル発光量はグループ別に設定できます。

・［SEL］ボタンを押して設定するグループのマニュアル発光量を点滅させ、［◀▶］ボタンを押して切り替えます。再度［SEL］ボタンを押すと点滅が点灯に変わり、その値が設定されます。

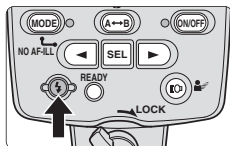
・1/1〜1/128の範囲で、1段ステップで設定できます。（初期設定値は1/1）

・［◀▶］ボタンを押し続けると早送りされます。

・［SEL］ボタンを押さない場合は、点滅を6回繰り返してから、その値が設定されます。

各種機能の使い方

ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800および
ワイヤレスリモートスピードライトSB-R200で
使用できる機能の詳細を説明しています。
カメラ側の機能や設定は、必ずカメラの使用説明書をご覧ください。

1 テスト発光するには

2灯発光クローズアップ撮影時

SU-800の［テスト］ボタンを押すと、SB-R200はAグループが1秒後に、Bグループが2秒後に、M1/64の光量でテスト発光します。

・発光禁止に設定したグループ（AまたはB）も発光します。

3灯発光クローズアップ撮影時

SU-800の［テスト］ボタンを押すと、SB-R200はAグループが1秒後に、Bグループが2秒後に、Cグループが3秒後に、M1/64の光量でテスト発光します。

・発光禁止に設定したグループも発光します。

コマンダー撮影時

SU-800の［テスト］ボタンを押すと、リモート（補助灯）はAグループが1秒後に、Bグループが2秒後に、Cグループが3秒後にテスト発光します。

・発光モードには関わりなく、SB-R200はM1/64で発光し、SB-800、SB-600はM1/16で発光します。
・SB-900の発光量はSB-900の使用説明書をご覧ください。
・発光禁止に設定したグループも発光します。

リピーティング発光撮影時

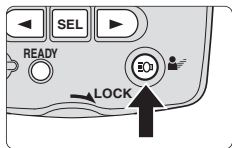
SU-800の［テスト］ボタンを押すと、リモート（補助灯）はAグループが1秒後に、Bグループが2秒後に、Cグループが3秒後にテスト発光します。

・発光モードには関わりなく、SB-800、SB-600はM1/16で発光します。
・SB-900の発光量はSB-900の使用説明書をご覧ください。
・発光禁止に設定したグループも発光します。

2 撮影の前にライティングを確認(モデリング発光)するには

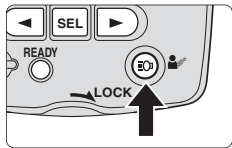
モデリング発光させると一定の微小光量で連続発光して、被写体の明るさや影など、ライティング状態を撮影前にチェックできます。

・赤色レディーライト点灯後に発光できます。

クローズアップ撮影時

SU-800のターゲットライトボタンを押して1秒以内に指を離すと、SB-R200が微少光量で約1秒間モデリング発光します。

また、モデリング発光機能を持つカメラのプレビューボタンを押した場合も同様に、約1秒間モデリング発光します。

・ターゲットライトが点灯している場合は、消灯します。
・発光禁止設定のグループのSB-R200は発光しません。

コマンダー撮影時

SU-800による発光

SU-800のターゲットライトボタンを押して1秒以内に指を離すと、設定対象の(点滅表示している)リモート(補助灯)グループのみ約1秒間モデリング発光します。

・発光禁止に設定されたグループのリモート(補助灯)は発光しません。

カメラによる発光

モデリング発光機能を持つカメラのプレビューボタンを押すと、リモート(補助灯)が約1秒間モデリング発光します。

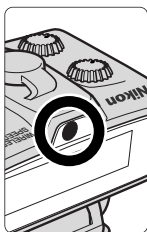
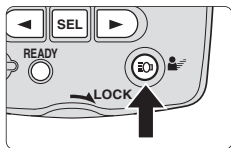
・発光禁止に設定されたグループのリモート(補助灯)は発光しません。

☑モデリング発光中はシャッターをきらないこと

モデリング発光中にカメラのシャッターをきると、正常な調光が行われませんのでご注意ください。

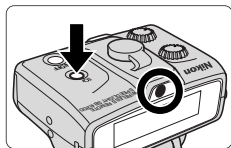
3 ターゲットライトを使用するには

SB-R200は、ターゲットライトを使用してスピードライトの照射方向を確認できます。

SU-800のターゲットライトボタンによるターゲットライトの点灯／消灯

SU-800のターゲットライトボタンを1秒以上押すと、すべてのSB-R200のターゲットライトが点灯します。

- ターゲットライトは60秒後に自動的に消灯します。自動消灯する前に消したい場合は、再度ターゲットライトボタンを1秒以上押してください。
- SB-R200の状態によっては、二度押しが必要な場合があります。
- ターゲットライトは、以下の操作によっても消灯します。

  シャッターをきる
  テスト発光する
  モデリング発光する
  SB-R200の［ON/OFF］（電源）ボタンを押す
  SB-R200のターゲットライトボタンを押す
  カメラのFVロックをオンにする

SB-R200のターゲットライトボタンによるターゲットライトの点灯／消灯

ターゲットライト消灯時にSB-R200のターゲットライトボタンを押すと、そのSB-R200のターゲットライトが点灯します。

- ターゲットライト点灯時は、消灯します。
- ターゲットライトは60秒後に自動的に消灯します。
- 自動消灯する前に消したい場合は、再度ターゲットライトボタンを押してください。

4 暗い被写体をAF(オートフォーカス)で撮影するには

SU-800はコマンダー撮影、リピーティング発光撮影時には、被写体が暗く、オートフォーカスでのピント合わせが難しい場合、カメラからの指示によってAF補助光を使用してオートフォーカスでのピント合わせが可能になります。

・クローズアップ機能設定時はAF補助光は使用できません。

・SU-800のAF補助光は、CLS対応カメラのマルチエリアAFに対応しています。

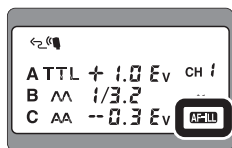
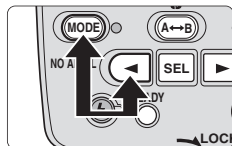
AF補助光の有効撮影距離

約1m〜10m(50mm F1.8レンズ使用時)

(使用レンズによっては、有効撮影距離が短くなる場合があります)

使用可能なレンズ焦点距離

24mm〜105mm

AF補助光の照射/禁止設定

SU-800は、カメラからの指示があってもAF補助光を照射しないように設定できます。[MODE](モード)ボタン+ [◀](左) ボタンを同時に約2秒間押すと、AF-ILL(AF補助光照射)とNO AF-ILL(照射禁止)が切り替り、設定を変更できます。

AF補助光使用時のご注意

・AF補助光が照射されても、ファインダー内のピント表示が点灯しないときは、マニュアルフォーカスでピントを合わせてください。

・フォーカスロックを行っている場合や、レディーライトが点灯していない場合には、AF補助光が照射されません。

・ご使用のカメラの使用説明書もご覧ください。

5 調光補正するには

スピードライト撮影時には、調光補正機能によって主要被写体の明るさを補正できます。

補正方法

主要被写体を明るくする場合は＋側に補正し、主要被写体を暗くする場合は－側に補正するのが一般的です。

TTLモードおよび絞り連動外部自動調光（SB-900、SB-800との組み合わせ時）の場合

スピードライトまたはコマンダーSU-800の調光補正量の設定によって、主要被写体の明るさを補正します。

- 補正値は＋3.0～－3.0の範囲で、1/3段ステップで設定できます。
- 調光補正を解除するには、調光補正値を“0”に設定してください。電源をOFFにしても、調光補正は解除されません。
- 調光補正機能を備えたフラッシュ内蔵一眼レフカメラは、カメラ側でも発光量を補正できます（詳細はカメラの使用説明書をご覧ください）。スピードライトまたはSU-800とカメラの両方で補正した場合は、両方の補正量を加算して調光します。
- ただし、スピードライトまたはSU-800の表示パネルにはスピードライトまたはSU-800で設定した補正値のみが表示されます。

マニュアルモードの場合

スピードライトの発光量を意図的にずらして、主要被写体の明るさを調節できます。

SB-900、SB-800使用時で絞り連動外部自動調光時のご注意

撮影状況によっては露出アンダーとなる場合がありますので、TTL対応カメラでの撮影時は、TTLモードで撮影することをおすすめします。

6 リピーティング（RPT）発光撮影

リピーティング発光撮影とは

スピードライトが連続発光して、1コマの画面内に被写体の連続的な動きを分解写真のように写し込める撮影です。CLS対応カメラに装着したSU-800が、A、B、Cの3つのグループのスピードライト（SB-900、SB-800など）の発光をワイヤレスで制御します。

・必ずご使用になるスピードライトの使用説明書をあわせてお読みください

使用できるスピードライト
SB-900、SB-800、SB-600

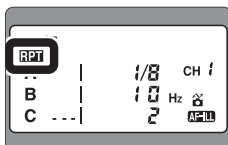
リピーティング発光撮影時のご注意

・リモートスピードライトSB-R200は使用できません。
・［A⟷B］選択ボタンを押してスピードライトの発光／発光禁止を設定することはできません。発光モードで設定してください。
・リピーティング発光撮影時は、新品電池を使用し、1回のレリーズごとにスピードライトの充電時間を十分にとってください。
・シャッタースピードが遅くなりますので、三脚のご使用をおすすめします。

リピーティング発光撮影時の設定項目

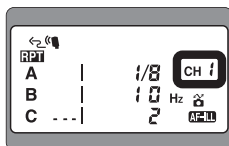
リピーティング発光撮影機能では、以下の項目が設定できます。

・チャンネル（1、2、3、4）
・グループ（A、B、C）
・各グループの発光／発光禁止
・マニュアル発光量、周波数、発光回数

リピーティング発光撮影時の設定方法

リピーティング発光撮影
画面表示例

リピーティング発光撮影の設定

SU-800のコマンダー／クローズアップ選択スイッチをコマンダー機能に設定し、［SEL］ボタンを約2秒間押し続けると、リピーティング発光撮影とコマンダー撮影が切り替ります。

・RPT表示を確認します。

SU-800のチャンネルの設定

SU-800の［SEL］ボタンを押してチャンネル表示を点滅させ、［◀▶］ボタンを押して切り替えます。再度［SEL］ボタンを押すと点滅が点灯に変わり、その値が設定されます。

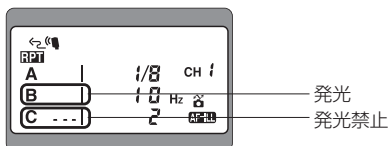
・チャンネルはA、B、Cグループ共通で、1～4のうちの1つに設定します。

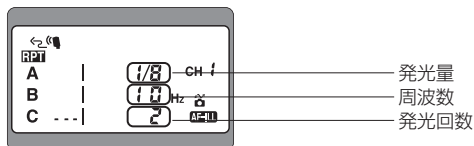
スピードライトのグループ、チャンネルの設定

SB-800使用時の例

チャンネルはSU-800と同じに設定します。

・設定方法は、ご使用のスピードライトの使用説明書をご覧ください。

各グループの発光モードの設定

［SEL］ボタンを押してグループ表示を点滅させ、［MODE］（モード）ボタンを押して、そのグループの発光／発光禁止を設定します。

発光量、周波数、発光回数の設定

A、B、Cのグループ共通で、マニュアル発光量、周波数、発光回数を設定します。[SEL]ボタンを押して設定する項目を点滅させ、[◀▶]ボタンを押して切り替えます。再度[SEL]ボタンを押すと点滅が点灯に変わり、その値が設定されます。

・[◀▶]ボタンを押し続けると早送りされます。
・[SEL]ボタンを押さない場合は、点滅を6回繰り返してから、その値が設定されます。

発光量、周波数、発光回数の決め方

発光量

・マニュアル発光量は1/8〜1/128の範囲で、1段ステップで設定できます。（初期設定値は1/8）

周波数

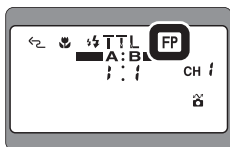
・周波数は1秒間当たりの発光回数です。Hz（ヘルツ）で表示され、1〜100の範囲で設定できます。（初期設定値は10）

発光回数

・発光回数は1コマで連続発光させる回数です。1〜90の範囲で設定できます。（初期設定値は2）
・発光回数は最大の発光回数です。露光中にだけ発光するため、シャッタースピードを速くしたり、周波数を長く設定すると、実際の発光回数は設定した回数以下になります。
・発光量と周波数の組み合わせにより、最大連続発光回数が制限されます。詳細は、使用するスピードライトの使用説明書をご覧ください。

7 オートFPハイスピードシンクロ撮影

オートFPハイスピードシンクロ機能を備えたカメラとの組み合わせで可能な撮影で、カメラ側でセットします。SU-800およびSB-R200ではセットできません。
スピードライト撮影時のシャッタースピードが使用カメラの最高速度まで可能になります。オートFPハイスピードシンクロに設定時には、シャッタースピードがシンクロスピードよりも高速側になった場合、自動的にFP発光に切り替わります。日中の撮影でも、同調シャッタースピードを気にすることなく、レンズの絞りを開いて背景をぼかした撮影がお楽しみいただけます。

・使用できる発光モードは、i-TTLモード、絞り連動外部自動調光、マニュアル発光です。

SB-R200のFP発光時のTTL調光範囲（m）

絞り ＼ ISO	25	50	100	200	400	800	1600
F1.4	0.6～2.3	0.6～3.3	0.6～4.6	0.6～6.5	0.8～9.2	1.1～13	1.6～18
F2	0.6～1.6	0.6～2.3	0.6～3.3	0.6～4.6	0.6～6.5	0.8～9	1.1～13
F2.8	0.6～1.1	0.6～1.6	0.6～2.3	0.6～3.3	0.6～4.6	0.6～6.5	0.8～9
F4	0.6～0.8	0.6～1.1	0.6～1.6	0.6～2.3	0.6～3.3	0.6～4.6	0.6～6.5
F5.6	0.6～0.6	0.6～0.8	0.6～1.1	0.6～1.6	0.6～2.3	0.6～3.3	0.6～4.6
F8	—	0.6～0.6	0.6～0.8	0.6～1.1	0.6～1.6	0.6～2.3	0.6～3.3
F11	—	—	0.6～0.6	0.6～0.8	0.6～1.1	0.6～1.6	0.6～2.3
F16	—	—	—	0.6～0.6	0.6～0.8	0.6～1.1	0.6～1.6
F22	—	—	—	—	0.6～0.6	0.6～0.8	0.6～1.1
F32	—	—	—	—	—	0.6～0.6	0.6～0.8

マニュアル発光について

マニュアル発光でのオートFPハイスピードシンクロ撮影時には、マニュアル発光量を小さく設定すると、SB-R200の発光量がきわめて小さくなることがありますが、これは異常ではありません。また、小発光量時には被写体の状態によって調光レベルにばらつきが生じることがありますのでご注意ください。

SB-R200のFP発光時のガイドナンバー表

光量	ISO感度						
	25	50	100	200	400	800	1600
M1/1	1.4	2.0	2.8	4.0	5.6	8.0	11.3
M1/2	1.0	1.4	2.0	2.8	4.0	5.6	8.0
M1/4	0.7	1.0	1.4	2.0	2.8	4.0	5.6
M1/8	0.5	0.7	1.0	1.4	2.0	2.8	4.0
M1/16	0.3	0.5	0.7	1.0	1.4	2.0	2.8
M1/32	0.2	0.3	0.5	0.7	1.0	1.4	2.0
M1/64	0.1	0.2	0.3	0.5	0.7	1.0	1.4

・FP発光時のガイドナンバーはシャッタースピード1/500秒の時の値です。

・上記FP発光時のガイドナンバーはシャッタースピードによって変化します。例えばシャッタースピードが1/500から1/1000になるとガイドナンバーは1EV小さくなります。つまり高速になるほどガイドナンバーは小さくなります。

8 FVロック撮影

FVロック機能を備えたカメラとの組み合わせで可能な撮影で、カメラ側でセットします。SU-800およびSB-R200ではセットできません。
FVとはFlash Valueの略で、フラッシュによる被写体の露光量を意味します。対応カメラでFVロックを行うと、構図を変えてもフラッシュ露光量がロックされるため、被写体の明るさを一定に保つ撮影が可能です。また、ロック中にズーミングや絞り値の変更を行っても、発光量は自動追随するのでフラッシュ露光量（明るさ）は変わりません。

・使用できる発光モードは、i-TTLモード、絞り連動外部自動調光です。

各種アクセサリーを使用した撮影

各種アクセサリーを使用した撮影について説明しています。
カメラ側の機能や設定は、必ずカメラの使用説明書をご覧ください。

1 カラーフィルターを使用した撮影

カラーフィルターセット（同梱専用）SJ-R200には、蛍光灯用（FL-G1）と電球用（TN-A1）の2種類の色補正フィルターとBLUE（青）、RED（赤）の2種類の着色フィルターが含まれています。

・別売のカラーフィルターセットSJ-2は8種類、20枚のカラーフィルターが付属。（☞P. 123）

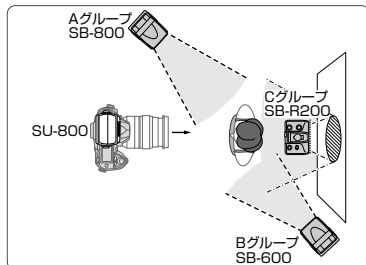
作例集-I

I-1

3灯撮影（カラーフィルター1枚使用）

人物の背後に置いたSB-R200にカラーフィルターを使用して、単純な背景に色の面白さをプラスしました。

主要被写体である人物は、前方からのメインの光に加えて後方から強めの光を当てることで浮き立たせ、髪の毛に印象的なハイライトをつけました。

設置例イラスト

・カメラ：D70
・レンズ：AF-S DXズームニッコールED
　18-70mm F3.5-4.5G（IF）
・Aグループ：SB-800（TTL）
・Bグループ：SB-600（TTL）
・Cグループ：SB-R200（M）

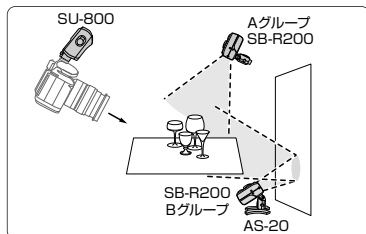
※「クローズアップスピードライト撮影作例集」のI-3は2種類のカラーフィルターを使用した2灯撮影の撮影事例です。I-2はカラーフィルターを使用しない3灯撮影の撮影事例です。I-4はカラーフィルターを使用しない2灯撮影の撮影事例です。

作例集-H

H-3

2灯撮影

赤と青の同梱のカラーフィルターを使用して、スピードライト光に色の演出を加えました。

設置例イラスト

・カメラ：D70
・レンズ：AF-S DXズームニッコールED
　18-70mm F3.5-4.5G（IF）
・Aグループ：SB-R200（TTL）
・Bグループ：SB-R200（TTL）

※「クローズアップスピードライト撮影作例集」のH-2、H-5はH-3と同様の撮影事例です。

カラーフィルターで色調を補正する撮影

一般に、蛍光灯の光源でスピードライト撮影する場合、カメラのホワイトバランスをフラッシュ（スピードライト）に設定すると、主要被写体はスピードライト光で色再現します。しかし、スピードライト光の届かないところは蛍光灯の影響を受けるため、背景と主要被写体とでカラーバランスが合わない画像になる場合があります。

これを防ぐには、蛍光灯用のフィルターを使用してスピードライト光を蛍光灯光源に変え、カメラのホワイトバランスを蛍光灯に設定して撮影します。

電球光源で電球用フィルター(TN-A1)を使用する場合も同様です。

・ホワイトバランス設定機能があるカメラで可能な撮影です。スピードライトでは設定できません。ホワイトバランスの詳細はカメラの使用説明書をご覧ください。

カラーフィルターで光に着色する撮影

着色フィルターを使用すると、スピードライト光に色を着けて撮影できます。

・着色して撮影するときは、ホワイトバランス設定機能があるカメラでは、カメラのホワイトバランスをフラッシュ（スピードライト）に設定すると効果的です。

カラーフィルター使用上のご注意

・カラーフィルターは消耗品です。外観が著しく劣化したときは、別売のカラーフィルターセットSJ-2をお求めください。

・カラーフィルターを装着して連続発光撮影をしないでください。発光部の発熱によって、フィルターの変形を早めることがあります。

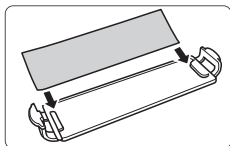
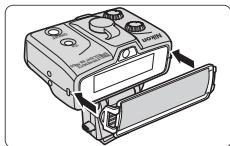
・発光時の熱によってフィルターの外観が収縮することがありますが、性能には問題ありません。

・カラーフィルターは裏表はありません。また、多少カールしていても性能には問題ありません。

・カラーフィルターにキズ等があっても、変色していないかぎり、性能には問題ありません。

・フィルターに記載の補正量はあくまでも目安です。撮影の前には試し撮りをして、補正量を確認してください。

・カラーフィルターが汚れた場合は、乾いた柔らかい布などで軽く拭き取ってください。

カラーフィルターを使った撮影手順

1 カラーフィルターをカラーフィルターホルダーSZ-1に差し込みます。

2 SZ-1をSB-R200に装着します。

3 カメラのホワイトバランスを設定し、撮影します。

・テスト発光する場合は（☞P. 88）

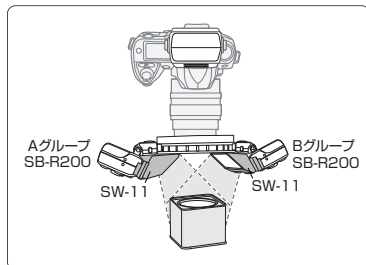
カラーフィルターの使い方

目的	使用するフィルター	カメラのホワイトバランス
蛍光灯光源の影響を補正する	FL-G1	蛍光灯
電球光源の影響を補正する	TN-A1	電球
スピードライト光に着色する	着色フィルター	フラッシュ（スピードライト）

2 SB-R200用配光アダプターSW-11を使用した撮影

SW-11を使用すると、SB-R200の光を光軸中心に寄せ、至近距離での撮影時に効果を発揮します。

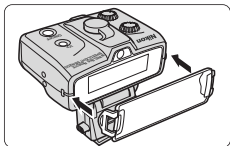
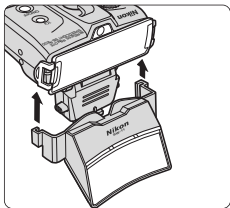
- SW-11は、レンズ先端から被写体までの距離が約15cm以内でのご使用をおすすめします。約15cm以上離れて使用した場合には配光ムラなどが生じることがあります。
- SW-11使用時は、マイクロニッコールレンズのご使用をおすすめします。

作例集-G　G-4

2灯撮影（配光アダプターSW-11使用）
レンズ先端に装着した左右のSB-R200にSW-11をかぶせて撮影しました。光がレンズ光軸中心に寄せられるのでボックスの奥の方まで光が届き、色鮮やかに描写できました。

設置例イラスト

- レンズ：AFマイクロニッコール60mm F2.8D
- Aグループ：SB-R200（TTL）
- Bグループ：SB-R200（TTL）

※「クローズアップスピードライト撮影作例集」のG-5はSW-11を使用しない撮影事例です。

SW-11の取り付け方

1 カラーフィルターホルダーSZ-1をSB-R200の発光部に装着します。

2 SZ-1の上にSW-11をかぶせます。
SW-11は、SZ-1の両端の溝に合わせて下側からスライドさせて取り付けます。

3 SB-R200の発光部をレンズ光軸側に60°に設定します。

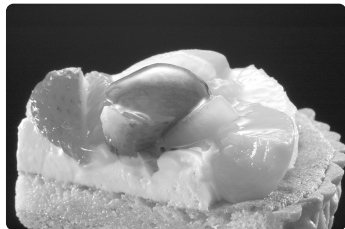
SB-R200用配光アダプターSW-11の効果的な使い方

SW-11は至近距離での撮影に使用すると効果的です、また、レンズ光軸側に60°回転させてご使用ください。

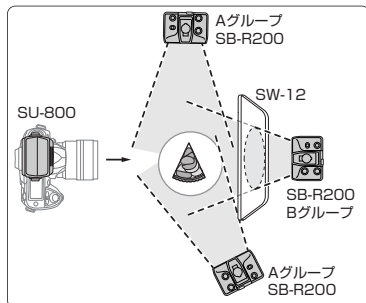
3 拡散板SW-12、フレキシブルアームクリップSW-C1を使用した撮影

拡散板SW-12を使用すると、SB-R200の光を和らげて被写体をソフトに照明できます。また、光が広く拡散して影を抑えた撮影ができます。

作例集-C

C-1

2灯撮影（拡散板SW-12使用）

ケーキの素材感を描写するために、SW-12を使用してSB-R200の光をやわらげました。拡散板を使用しない場合と比べ、影の付き方が自然で、素材の軟らかさやみずみずしさも表現できました。

設置例イラスト

使用機材

- カメラ：D70
- レンズ：AFマイクロニッコール60mm F2.8D
- Aグループ：SB-R200（TTL）
- Bグループ：SB-R200（TTL）

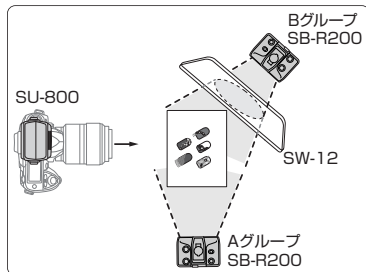
※「クローズアップスピードライト撮影作例集」のC-4はC-1と同様の撮影事例です。C-2とC-5はSW-12を使用しない撮影事例です。C-3は内蔵フラッシュ1灯での撮影事例です。

作例集-E

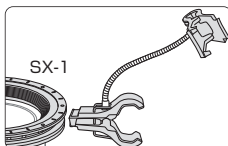
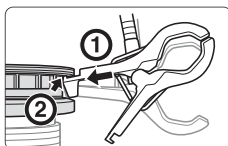
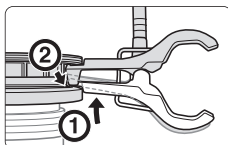
E-1

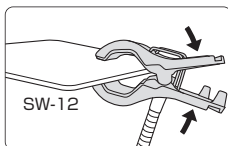
2灯撮影（拡散板SW-12使用）

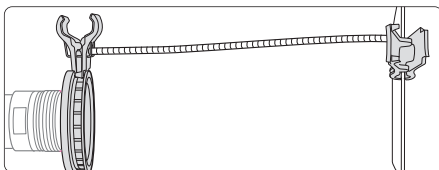
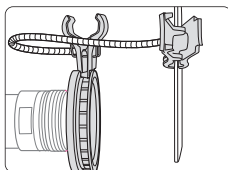
小さな被写体の細部までクリアに表現するために、両サイドからスピードライト光を当てました。左からの光を拡散板を透過させたことでやわらかなハイライトが得られています。また、光が全体に回ったことで、色もきれいに再現されました。

設置例イラスト

- カメラ：D70
- レンズ：AFマイクロニッコール105mm F2.8D
- Aグループ：SB-R200（TTL）
- Bグループ：SB-R200（TTL）

※「クローズアップスピードライト撮影作例集」のE-2はSW-12を使用しない撮影事例です。

フレキシブルアームクリップSW-C1の取り付け方

1 SW-C1の片方のクリップをアタッチメントリングSX-1の取り付け溝に合わせます。

2 図のようにSW-C1のクリップの取り付け溝をアタッチメントリングSX-1の取り付け溝の前面に合わせて差し込みます。

3 反対側のクリップを押しながらクリップをカメラ側に倒し、ストッパーがSX-1に当たったら、反対側のクリップを放します。

・クリップの溝がSX-1の溝にかみ合っていることを確認してください。

4 クリップで拡散板SW-12を保持します。

・SW-C1のクリップ間の距離は、どちらのクリップをSX-1に取り付けるか（コードの向きをカメラ側にするか、被写体側にするか）によって、図のように長短の2通りの使い方ができます。

☑SW-C1の使用上のご注意

・SW-C1が保持できる質量は約70gです。

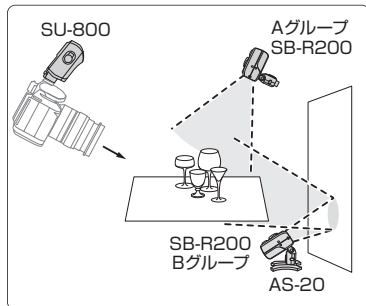
4 スピードライトスタンドAS-20を使用した撮影

AS-20を使用すると、SB-R200を任意の場所に設置して撮影できます。
また、アタッチメントリングSX-1を三脚に取り付けできます。

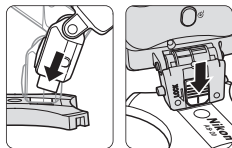
作例集-H

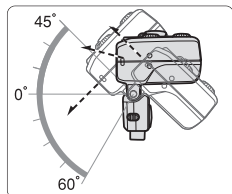
H-1

2灯撮影

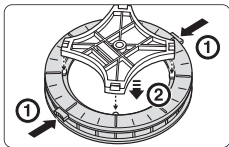
透明なグラスなどを内蔵フラッシュ1灯で撮影すると(H-4)、不要な影が目立ち、ガラスの質感が上手に描写できません。作例写真(H-1)では、上方からのSB-R200に加えて、AS-20を使ってSB-R200を被写体の後方に設置し、なおかつ背後の壁にバウンスさせて柔らかな透過光としてライティングすることで、グラスの形と質感の描写に成功しています。

設置例イラスト

・カメラ：D70
・レンズ：AF-S DXズームニッコールED
　　　　18-70mm F3.5-4.5G(IF)
・Aグループ：SB-R200(TTL)
・Bグループ：SB-R200(TTL)
※「クローズアップスピードライト撮影作例集」のH-4は内蔵フラッシュ1灯での撮影事例です。

AS-20へのSB-R200の取り付け方

1 SB-R200の取り付け脚をAS-20の取付シューに差し込み、ロックスイッチをスライドします。

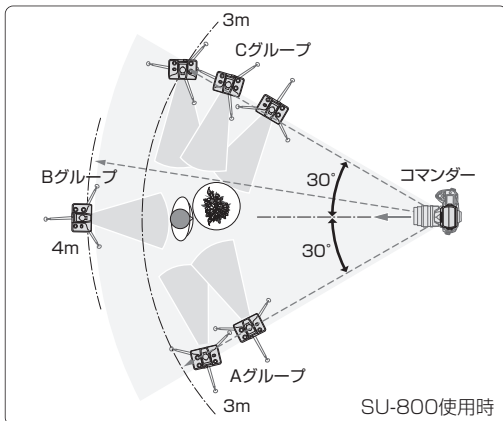
・ロックスイッチは止まるまでスライドさせ、赤い部分が見えなくなっていることを確認してください。
・取り外す際は、ロックスイッチをスライドしてから取り外します。

2 SB-R200の発光部を設定します。

SB-R200の発光部は下方に60°、上方に45°回転できます。15°ごとにクリックストップがあります。

SX-1へのAS-20の取り付け方

1 SX-1の着脱ボタンを押したまま、AS-20を図のように差し込み、指を離します。

- 両方の着脱ボタンを確実に正確に押して装着してください。
- 取り外す際は、着脱ボタンを押してから取り外します。

SB-R200の配置について

SB-R200は、図のように配置してください。

- SB-R200は、コマンダー（カメラ、スピードライト）の光がワイヤレスリモートセンサー窓に入る位置（通常はカメラより被写体に近い位置）に置きます。特に、手持ちで撮影する場合、コマンダーの光が確実にセンサー窓に入るように、SB-R200はカメラより前に置いてください。
- コマンダーとSB-R200の間に障害物があると、正常な交信ができません。

- コマンダーとSB-R200の距離は、使用するコマンダー（カメラ、スピードライト）によって異なります。詳細は、それぞれの使用説明書をご覧ください。
- 同じグループのSB-R200は、必ず一ヵ所にまとめて配置してください。
- SB-R200の直接光または強い反射光が、カメラの撮影レンズ（TTL撮影時）に入らないようにしてください。光が入ると、適正露出が得られません。
- 同時に使用できるSB-R200の台数に制限はありません。しかし、センサーに他のSB-R200の強い光が入ると、正常動作ができない場合があるため、1グループ最大3台を目安にしてください。
- 配置が終わったら、テスト発光して確認することをおすすめします。（☞P. 88）

ニコンクリエイティブライティングシステム(CLS)に対応していない一眼レフカメラとの組み合わせでの撮影

CLS対応以外の一眼レフカメラとの組み合わせでは、
ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800 と
ワイヤレスリモートスピードライトSB-R200 を、
別売のTTL調光コードSC-30で接続して使用します。

1 クローズアップ（コード接続）撮影の概要

CLS対応以外のカメラとの組み合わせ時は、SU-800とSB-R200を、別売のTTL調光コードSC-30で接続して使用する、クローズアップ（コード接続）撮影ができます。

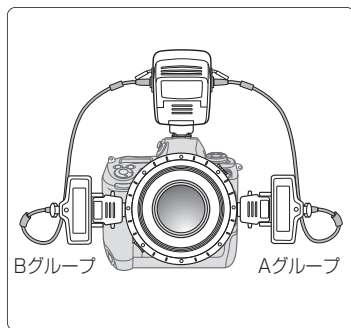
・CLSに対応していないデジタル一眼レフカメラとの組み合わせではD-TTLモードになり、CLSに対応していないフィルム一眼レフカメラとの組み合わせではTTLモードになります。（☞P.116）

・CLS対応カメラとの組み合わせではクローズアップ（コード接続）撮影はできません。

クローズアップ（コード接続）撮影時のご注意

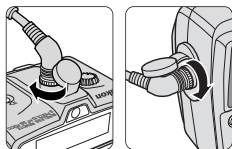
・SB-R200は、図のように右側のコードに接続されたものがAグループ、左側のコードに接続されたものがBグループとなります。

・SU-800とSB-R200をコード接続すると、SB-R200の［ON/OFF］（電源）ボタン、ターゲットライトボタンは操作無効になり、［GROUP］（グループ）設定ダイヤル、［CHANNEL］（チャンネル）設定ダイヤルの設定は無効になります。

・SU-800の電源がONになると、SB-R200の電源もONになります。SU-800の電源がOFFになると、SB-R200の電源もOFFなります。

セットの仕方

1 SU-800とSB-R200をセットします。

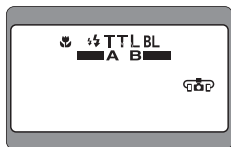
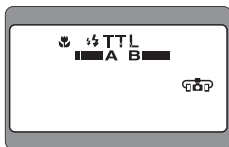
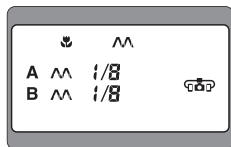
「ニコン クローズアップスピードライト コマンダーキットR1C1でのクローズアップ撮影手順」（☞P. 28）と同様にして、SU-800とSB-R200を配置します。

・スピードライトスタンドAS-20を使用する場合も、同様です。

2 コードで接続します。

SU-800とSB-R200のコード接続ターミナル間をSC-30（別売）で接続します。

発光モード

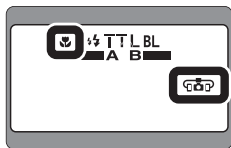
クローズアップ（コード接続）撮影では、TTL BL/TTL/Mの3つの発光モードが使用可能です。［MODE］（モード）ボタンを押すごとに、使用できるモードが切替り表示されます。

- 使用できる発光モードはカメラやレンズの組み合わせなどによって異なります。
- 使用できない発光モードは、［MODE］ボタンを押しても表示されません。
- 設定はA、Bグループ共通になります。

TTL BLモード画面表示例

TTLモード画面表示例

M（マニュアル）モード画面表示例

クローズアップ（コード接続）撮影時の設定項目

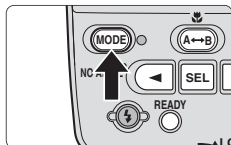
クローズアップ（コード接続）撮影では、以下の項目が設定できます。

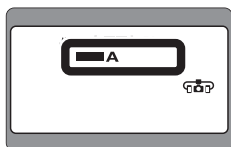
- 発光モード（TTL BL/TTL/M）
- A、Bグループの発光／発光禁止
- 調光補正量（TTLモード時）
- マニュアル発光量（Mモード時）

2 クローズアップ（コード接続）撮影手順

1 カメラ、SU-800の電源を入れます。

カメラの電源をONにしてから、SU-800の[ON/OFF]（電源）ボタンを押すと、SU-800およびSB-R200が電源ONになります。

・充電が完了すると、SU-800およびSB-R200の赤色レディーライトが点灯します。

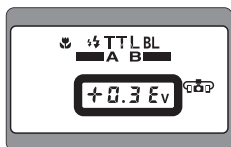
・クローズアップモード表示、コード接続表示の点灯を確認してください。

2 SU-800で発光モードを設定します。

[MODE]（モード）ボタンを押して、TTL BL/TTL/Mの中から選択します。

3 SB-R200の発光を設定します。

[A←→B］選択ボタンを押して、AまたはBグループの発光／発光禁止を切り替えます。

・SU-800の表示パネル側から見て、左がAグループ、右がBグループです。

・発光禁止のグループの表示は消灯します。

・A、B両方を発光禁止にすることはできません。

4 調光補正量を設定します。（TTL BL/TTLモード時）

[SEL］ボタンまたは［◀▶］ボタンを押して調光補正量を点滅させ、［◀▶］ボタンを押して切り替えます。再度［SEL］ボタンを押すと点滅が点灯に変わり、その値が設定されます。

・設定値はA、Bグループ共通です。

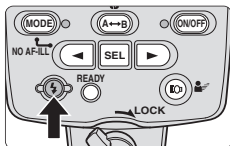
・＋3.0～－3.0の範囲で、1/3段ステップで設定できます。

・表示は、1/3は0.3、2/3は0.7と表示されます。

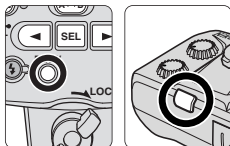
・［◀▶］ボタンを押し続けると早送りされます。

・[SEL］ボタンを押さない場合は、点滅を6回繰り返してから、その値が設定されます。

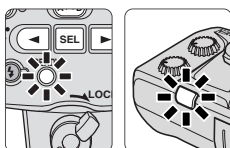
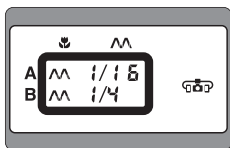
・調光補正量が0.0の場合は、表示が消灯されます。

・ご使用のカメラによっては調光補正量が設定できないこともあります。

5 ［テスト］ボタンを押して、テスト発光します。

SU-800の［テスト］ボタンを押すと、SB-R200がテスト発光します。

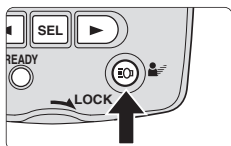
・TTLモード時はM1/64で、M（マニュアル）モード時は設定した光量で発光します。

6 構図を決め、撮影します。

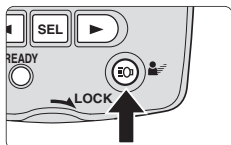
SU-800とSB-R200の赤色レディーライトの点灯を確認し、シャッターをきります。

☑発光直後に赤色レディーライトが点滅した場合

TTL BL/TTLモードの撮影で、SB-R200がフル発光して露出不足の可能性がある場合は、発光直後にカメラのファインダー内およびSU-800とSB-R200の赤色レディーライトが約3秒間点滅します（カメラによってはSU-800とSB-R200のみ、またはカメラのみが点滅）。
ISO感度を高くするか、絞り値を開放側に設定するなどして、撮影し直してください。

M（マニュアル）モード時はマニュアル発光量を設定します。

［SEL］ボタンを押してマニュアル発光量を点滅させ、［◀▶］ボタンを押して切り替えます。再度［SEL］ボタンを押すと点滅が点灯に変わり、その値が設定されます。

・マニュアル発光量はA、Bグループで別々に設定できます。
・1/1～1/64の範囲で、1段ステップで設定できます。（初期設定値は1/8）
・［◀▶］ボタンを押し続けると早送りされます。
・［SEL］ボタンを押さない場合は、点滅を6回繰り返してから、その値が設定されます。

クローズアップ（コード接続）撮影時に、撮影の前にライティングを確認（モデリング発光）するには

SU-800のターゲットライトボタンを押して1秒以内に指を離すと、SB-R200が一定の微小光量で連続発光して被写体の明るさや影など、ライティング状態を事前にチェックできます。

クローズアップ（コード接続）撮影時に、ターゲットライトを使用するには

SU-800のターゲットライトボタンを1秒以上押すと、SB-R200のターゲットライトが点灯します。

・ターゲットライトは60秒後に消灯します。60秒以内に消したい場合は、再度ターゲットライトボタンを1秒以上押してください。

・ターゲットライトは、以下の操作によっても消灯します。

　シャッターをきる
　テスト発光する
　モデリング発光する
　［ON/OFF］（電源）ボタンを押す

・SB-R200のターゲットライトボタンは操作無効です。

資料

発光モードの説明、トラブルへの対処、お手入れの方法などを説明しています。
また、別売アクセサリーもご紹介しています。

1 発光モードの種類

コマンダーSU-800とリモートスピードライトSB-R200は、TTL、M（マニュアル）の2つの発光モードが使用できます。一般的な撮影にはTTLモードの使用をおすすめします。

・必ず使用するカメラの使用説明書をご覧ください。

TTLモード

被写体からの反射光をカメラで測光し、カメラがスピードライトの発光量を制御する調光方式です。

CLS対応カメラとの組み合わせではi-TTLモード、CLSに対応していないデジタル一眼レフカメラとの組み合わせではD-TTLモード、TTL調光が可能なカメラではTTLモードになり、以下の調光ができます。

TTL-BL調光

マルチパターンによる測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。

TTL調光

背景の明るさは考慮されず、撮影画面が基準露光量となるように調光されます。主要被写体のみを強調する場合や露出補正を行う場合に適しています。

TTLモード時の調光範囲

SB-R200をリモートスピードライト（補助灯）として使用した場合の調光範囲は、0.6m～28mです。ただし、ISO感度、絞り値によって異なります。

調光範囲（m）

絞り＼ISO	25	50	100	200	400	800	1600
F1.4	0.6～3.5	0.6～5.0	0.6～7.1	0.9～10.0	1.3～14.1	1.8～20	2.5～28
F2	0.6～2.5	0.6～3.5	0.6～5.0	0.6～7.1	0.9～10.0	1.3～14	1.8～20
F2.8	0.6～1.8	0.6～2.5	0.6～3.5	0.6～5.0	0.6～7.1	0.9～10.0	1.3～14
F4	0.6～1.3	0.6～1.8	0.6～2.5	0.6～3.5	0.6～5.0	0.6～7.1	0.9～10.0
F5.6	0.6～0.9	0.6～1.3	0.6～1.8	0.6～2.5	0.6～3.5	0.6～5.0	0.6～7.1
F8	—	0.6～0.9	0.6～1.3	0.6～1.8	0.6～2.5	0.6～3.5	0.6～5.0
F11	—	—	0.6～0.9	0.6～1.3	0.6～1.8	0.6～2.5	0.6～3.5
F16	—	—	—	0.6～0.9	0.6～1.3	0.6～1.8	0.6～2.5
F22	—	—	—	—	0.6～0.9	0.6～1.3	0.6～1.8
F32	—	—	—	—	—	0.6～0.9	0.6～1.3

2灯発光クローズアップ撮影時の使用レンズ別のTTL調光範囲の求め方

マイクロニッコールレンズ使用時は、下の表から、特定の撮影倍率での適正露出が得られる絞り値範囲が読み取れます。ISO感度、レンズの焦点距離、撮影倍率から絞り値範囲を読み取ります。

撮影倍率とは、結像面（フィルム面）に写された像の大きさと被写体の実際の大きさとの比率です。例えば、実際には5cmの長さの被写体が結像面（フィルム面）では1cmに写ったときの撮影倍率は1：5となります。

ISO感度　　レンズ焦点距離

ISO							AF/AF-Sマイクロニッコールレンズ					
25	50	100	200	400	800	1600	60mm F2.8D	60mm F2.8G ED	105mm F2.8D	ED 105mm F2.8G (IF)	ED 200mm F4D (IF)	DX 85mm F3.5G ED
		2.8	4	5.6	8	11	1：10	1：10	1：5, 1：10	1：5, 1：10		
	2.8	4	5.6	8	11	16	1：1, 1：10	1：1, 1：10	1：1, 1：3, 1：5, 1：10	1：5, 1：10	1：1, 1：3, 1：5, 1：10	1：3, 1：5, 1：10
2.8	4	5.6	8	11	16	22	1：1, 1：3, 1：5, 1：10	1：1, 1：3, 1：5, 1：10	1：1, 1：3, 1：5, 1：10	1：1, 1：3, 1：5, 1：10	1：1, 1：3, 1：5, 1：10	1：1, 1：3, 1：5, 1：10
4	5.6	8	11	16	22	32	1：1, 1：3, 1：5, 1：10	1：3, 1：5, 1：10	1：1, 1：3, 1：5, 1：10	1：1, 1：3, 1：5, 1：10	1：1, 1：3, 1：5	1：1, 1：3, 1：5, 1：10
5.6	8	11	16	22	32	45	1：1, 1：3, 1：5, 1：10	1：3, 1：5, 1：10	1：1, 1：3, 1：5, 1：10	1：1, 1：3, 1：5, 1：10	1：1, 1：3, 1：5	1：1, 1：3, 1：5, 1：10
8	11	16	22	32	45	64	1：3, 1：5, 1：10	1：3, 1：5, 1：10	1：1, 1：3, 1：5, 1：10	1：1, 1：3, 1：5, 1：10	1：1, 1：3	1：1, 1：3, 1：5
11	16	22	32	45	64		1：3, 1：5, 1：10	1：3, 1：5, 1：10	1：1, 1：3, 1：5	1：1, 1：3, 1：5	1：1	1：1, 1：3, 1：5
16	22	32	45	64			1：3, 1：5	1：3, 1：5	1：3	1：1, 1：3	1：1	1：1, 1：3
22	32	45	64				1：3, 1：5	1：3, 1：5		1：1		
32	45	64										
45	64											
64												

有効F値（絞り値）

適正露出範囲

撮影倍率　1：1　1：3　1：5　1：10

- 上記はSB-R200をアタッチメントリングSX-1の左右に装着し、光量比を1：1に設定して2灯発光したときの値です。
- 使用レンズ、撮影倍率によっては、SB-R200をレンズ光軸側に向けた方がより自然な照明ができる場合があります。ターゲットライトを使用して、SB-R200が画角中央を照明するように調整してください。
- 上記撮影倍率以外での撮影時は、近い値から類推してください。例えば、撮影倍率1：2の場合は、1：1と1：3を参照してください。
- SB-R200用配光アダプターSW-11併用時には、撮影倍率によって光量の増減があるため（撮影距離約15cm以下では光量が増えます）、試し撮りをおすすめします。
- 上記の絞り値は有効F値であり、使用レンズに表示されている絞り値ではありません。

☑レンズの絞り値と有効F値

マイクロレンズのように近接撮影可能なレンズは、レンズを繰り出して撮影倍率を増大すると結像面（フィルム面）上の像の明るさは減少し、有効F値（実質的なレンズの明るさ）が変化します。撮影倍率と有効F値の関係は、以下の通りです。

Fe＝F（1＋M）

Fe ：有効F値（実質的なレンズの明るさ）
F ：レンズに設定する絞り値
M ：撮影倍率

マイクロニッコールレンズ使用時のTTLモード撮影では、カメラファインダー内表示または外部表示パネルを使って絞り値を設定する場合は、表示された絞り値が有効F値です。

M（マニュアル）モード

任意の絞り値と発光量の組み合わせで露出や撮影距離をコントロールできます。自動調光モードでは難しいスピードライト撮影にも対応できます。

設定できる発光量

クローズアップ撮影時：M1/1〜M1/64
コマンダー撮影時：M1/1〜M1/128
リピーティング発光撮影時：M1/8〜M1/128

M（マニュアル）モード時の絞り値、発光量の求め方

M（マニュアル）モードでの撮影時は、下記のガイドナンバーと計算式によって、適正な露出が得られる絞り値や発光量、撮影距離を計算できます。

・ガイドナンバー（GN）はスピードライトの発光量を示し、ISO100・mで表示されます。数値が大きくなるほど、光量が大きくなります。

絞り値の求め方

絞り値は下記の式で算出します。

絞り値＝ガイドナンバー（ISO 100・m）×ISO感度係数÷撮影距離（m）

・得られた絞り値をSU-800とカメラ（またはレンズ）に設定します。

SB-R200のガイドナンバーは、10（ISO 100・m）です。

ISO感度係数

ISO感度に応じて上のガイドナンバーに下の係数を乗じてください。

ISO	25	50	100	200	400	800	1600	3200	6400
係数	0.5	0.71	1	1.4	2	2.8	4	5.6	8

絞り連動外部自動調光（AA）モード

スピードライトの発光による被写体からの反射光をスピードライトが測光し、カメラから伝達されるISO感度・絞り値・焦点距離・露出補正値などの情報を加えて、スピードライトが発光量を制御します。

・絞り連動外部自動調光は、コマンダー撮影時で、リモート（補助灯）にSB-900、SB-800を使用時のみ設定可能です（SB-R200、SB-600は絞り連動外部自動調光モード信号を受信すると警告表示します）。

・非CPUレンズ装着時に絞り連動外部自動調光（AA）モードに設定すると、AA表示が点滅して警告し、発光しません。

・絞り連動外部自動調光モード時の調光範囲は、使用するスピードライトの使用説明書をご覧ください

✔絞り連動外部自動調光モード時のご注意

撮影距離が遠い場合には、調光範囲内であっても露出アンダーとなる場合があります。TTL対応カメラでの撮影時は、TTLモードで撮影することをおすすめします。

装着可能なSB-R200の数

AF ニッコールレンズ

レンズ名称	アダプターリング	装着可能な数
AF-S NIKKOR 24mm f/1.4G ED	SY-1-77	2個まで
Ai AF ニッコール28mm F1.4D	SY-1-72	4個まで
Ai AF マイクロニッコール60mm F2.8D	UR-5+SY-1-72	4個まで
AF-S マイクロニッコール60mm F2.8G ED	SY-1-62	4個まで
Ai AF ニッコール85mm F1.4D (IF)	SY-1-77	4個まで
Ai AF DC ニッコール105mm F2D	SY-1-72	4個まで
Ai AF マイクロニッコール105mm F2.8D	SY-1-62	4個まで
AF-S VRマイクロニッコールED 105mm F2.8G (IF)	SY-1-62	4個まで
Ai AF DC ニッコール135mm F2D	SY-1-72	4個まで
Ai AF ニッコールED 180mm F2.8D (IF)	SY-1-72	4個まで
Ai AF マイクロニッコールED 200mm F4D (IF)	SY-1-62	4個まで
Ai AF-S ニッコールED 300mm F4D (IF)	SY-1-77	4個まで
Ai AF-S ズームニッコールED 17-35mm F2.8D (IF)	SY-1-77	4個まで
Ai AF ズームニッコールED 18-35mm F3.5-4.5D (IF)	SY-1-77	2個まで
AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED	SY-1-77	2個まで
Ai AF-S ズームニッコールED 28-70mm F2.8D (IF)	SY-1-77	2個まで
AF-S VR ズームニッコールED 70-200mm F2.8G (IF)	SY-1-77	4個まで
AF-S NIKKOR 70-200mm f/2.8G ED VRⅡ	SY-1-77	4個まで
Ai AF ズームニッコールED 80-200mm F2.8D	SY-1-77	4個まで

DXニッコールレンズ

レンズ名称	アダプターリング	装着可能な数
AF-S DX NIKKOR 35mm f/1.8G	SY-1-52	2個まで
AF-S DX Micro NIKKOR 85mm f/3.5G ED VR	SY-1-52	4個まで
AF-S DX ズームニッコールED 12-24mm F4G (IF)	SY-1-77	4個まで
AF-S DX ズームニッコールED 17-55mm F2.8G(IF)	SY-1-77	2個まで
AF-S DX ズームニッコールED 18-70mm F3.5-4.5G(IF)	SY-1-67	2個まで

マニュアルフォーカスニッコールレンズ

レンズ名称	アダプターリング	装着可能な数
PC-E NIKKOR 24mm f/3.5D ED＊1	SY-1-77	2個まで
Ai ニッコール35mm F1.4S	SY-1-52	2個まで
PC-E Micro NIKKOR 45mm f/2.8D ED＊1	SY-1-77	2個まで
Ai マイクロニッコール55mm F2.8S	SY-1-52	4個まで
Ai ニッコール85mm F1.4S	SY-1-72	2個まで
PC マイクロニッコール85mm F2.8D＊1	SY-1-77	2個まで
PC-E Micro NIKKOR 85mm f/2.8D＊1	SY-1-77	2個まで

＊1：ティルト/シフト設定での使用はおすすめしません。

レンズ名称	アダプターリング	装着可能な数
Ai ニッコール105mm F1.8S	SY-1-62	2個まで
Ai ニッコール105mm F2.5S	SY-1-52	2個まで
Ai マイクロニッコール105mm F2.8S	SY-1-52	2個まで
Ai ニッコール135mm F2S	SY-1-72	2個まで
Ai ニッコール135mm F2.8S	SY-1-52	2個まで
Ai ニッコールED 180mm F2.8S	SY-1-72	2個まで
Ai マイクロニッコール200mm F4S (IF)	SY-1-52	4個まで

焦点距離によってはケラレが生じるレンズ

以下のレンズでは、焦点距離によってはケラレが生じますのでご注意ください。

	ケラレが生じるレンズ焦点距離	
レンズ名称	DXフォーマットのデジタル一眼レフカメラ	135判(24×36mm)の一眼レフカメラおよびFXフォーマットのデジタル一眼レフカメラ
AF-S NIKKOR 24mm f/1.4G ED	ケラレなし	ケラレあり
Ai AF ニッコール28mm F1.4D	ケラレなし	ケラレあり
Ai AF-S ズームニッコールED 17-35mm F2.8D (IF)	ケラレなし	焦点距離24mm以下
Ai AF ズームニッコールED 18-35mm F3.5-4.5D (IF)	ケラレなし	焦点距離24mm以下
AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED	ケラレなし	焦点距離28mm以下
Ai AF-S ズームニッコールED 28-70mm F2.8D (IF)	ケラレなし	焦点距離35mm以下
AF-S DX ズームニッコールED 12-24mm F4G (IF)	焦点距離15mm以下	—
AF-S DX ズームニッコールED 17-55mm F2.8G(IF)	焦点距離20mm以下	—
AF-S DX ズームニッコールED 18-70mm F3.5-4.5G(IF)	焦点距離18mm	—

✔SB-R200をレンズ装着時には

ワイヤレスリモートスピードライトSB-R200をレンズに装着して使用する際は、接触による破損が起きないように十分にご注意ください。

3 連続発光時のご注意（クローズアップ（コード接続）撮影時）

注意

連続発光の制限回数を越えて発光させないこと

スピードライトの過熱と劣化を防ぐため、連続発光は下記の「連続発光の制限回数」でいったん止め、10分以上休ませて発光部を自然冷却してください。

連続発光の制限回数

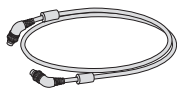
発光モード	制限回数（6コマ/秒）
TTLモード	15回以下
マニュアル発光（光量：M1/1、M1/2）	
マニュアル発光（光量：M1/4～M1/64）	30回以下

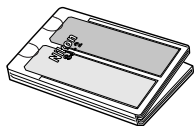
連続撮影（発光）する場合に同調して発光できる回数

連続撮影する際には、「連続発光可能コマ数」のコマ数までは同調発光できます。

SB-R200の連続発光可能コマ数（連続撮影速度：6コマ／秒）

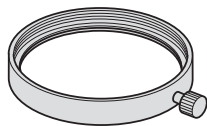
光量			
1/8	1/16	1/32	1/64
4コマまで	8コマまで	16コマまで	30コマまで

4 別売アクセサリー

TTL調光コード SC-30

コマンダーSU-800とリモートスピードライトSB-R200をコード接続して、TTLモードでのクローズアップ（コード接続）撮影ができます。

カラーフィルターセット SJ-2

カラーフィルター8種類、20枚のセットです。

・FL-G1（蛍光灯用）	・FL-G2（蛍光灯用）
・TN-A1（電球用）	・TN-A2（電球用）
・BLUE（青）	・YELLOW（黄色）
・RED（赤）	・AMBER（肌色）

カラーフィルターは消耗品です。ご使用条件により異なりますが、発光時の熱によって劣化します。適時点検の上、交換するようおすすめいたします。

専用アダプターリング UR-5

AFマイクロニッコール60mm F2.8D使用時は、UR-5を取り付けてからアダプターリングSY-1-72を介してアタッチメントリングSX-1を装着してください。

5 お手入れについて

シンナーやベンジンなどの有機溶剤を清浄に使用しないこと
火災や健康障害の原因となります。
製品を破損します。

お手入れの方法

・ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払った後、柔らかい清潔な布で軽く拭いてください。特に、海辺で使った後は、真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた布で軽く拭いて乾かしてください。
・ブラシなどで表示パネルを拭いた場合、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色したりすることがありますが、故障ではありません。しばらく放置すると、正常な状態に戻ります。
・本機内部には、精密な電子部品が多く含まれています。振動や衝撃を与えないでください。また、表示パネルを強い力で押さないでください。

保管の方法

・カビや湿気による故障を防ぐため、風通しの良い乾燥したところに保管してください。
・ナフタリンや樟脳、磁気を発生する器具の近くには、置かないでください。
・極度に高温になるところ（夏期の車内やストーブなどの近く）には、置かないでください。高温になると、故障の原因となります。
・約2週間以上使用しないときは、電池の液漏れによる故障を防ぐために、電池を取り出してください。
・コンデンサー（本機内部の部品）の劣化を防ぐため、約1ヶ月に1回はテスト発光を行ってください。
・乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸って効力がなくなりますので、ときどき交換してください。

ご使用になる場所にご注意ください

・極端に温度差がある場所に移動すると、本機内部や外観部に水滴が生じることがあります。バッグやビニール袋などに入れ、周囲の温度になじませてからご使用ください。
・テレビ塔や高圧鉄塔に近い場所では、強い磁気や電波が発生しており、誤作動することがあります。

6 電池について

使用できる電池

3VのCR123Aリチウム電池をご使用ください。

・これ以外の電池はご使用できません。

・充電池ではありません。充電すると、破裂する恐れがあります。

・電池の仕様により、連続発光して電池が高温になると発光できなくなることがあります。ただし、電池温度が下がれば、ご使用になれます。

電池に関するご注意

・電池を入れるときは、電源OFFにしてから、+/−を間違えないよう正しく入れてください。

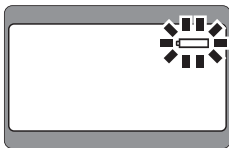
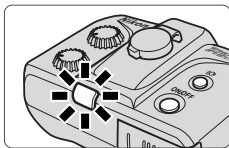
・電池の両極が汗や油などで汚れていると、接触不良の原因となります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

・低温時に消耗した電池を使用すると、コマンダーやスピードライトが作動しなくなることがあります。

・低温時に撮影する場合は、新しい電池を使用し、保温した予備の電池を用意して、暖めながら交互に使用してください。

・低温時は、常温時より撮影可能コマ数が低下します。低温のために一時的に性能が低下して使えなかった電池でも、常温に戻ると使える場合があります。

・電池を火の中に投入したり、ショートさせたり、分解、加熱、充電したりしないでください。

電池交換の目安

コマンダーSU-800は電源ONや発光後、約30秒が経過してもレディーライトが点灯しない場合は、電池交換表示が点滅します。

・電池を交換してください。

リモートスピードライトSB-R200が電池容量不足になった場合は、電源ONや発光後、緑色レディーライトが点滅します。

・電池を交換してください。

7 故障かな？と思ったら

トラブルが起きたり、警告表示がありましたら、修理を依頼する前に、下記の点を確認してください。

コマンダーSU-800とリモートスピードライトSB-R200による警告表示

【クローズアップ機能時】

SB-R200コード接続警告

CLS対応カメラ装着時には、SU-800とSB-R200はコード接続では使用できません。コード接続された場合は、Errが表示され、コード接続マークが点滅します。

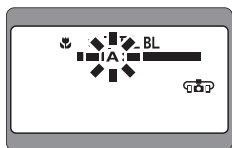
非適合カメラ接続警告

SU-800は、COOLPIXシリーズカメラ（COOLPIX P6000を除く）には使用できません。装着時には、ワイヤレス送信表示が点滅して警告表示します。

SB-R200コード接続異常警告

CLSに対応していないカメラ装着時で、SU-800とSB-R200が正しく接続されていない場合、コード接続マークが点滅します。

- A、Bグループの両方とも正しく接続されていない場合は、Errが表示され、コード接続マークが点滅します。

SB-R200通信異常警告

CLSに対応していないカメラ装着時で、SU-800とSB-R200が正しく接続されていても、電池容量切れなどの理由で通信ができない場合は、通信できないグループの表示（A、B）が点滅します。コード接続マークは点滅しません。

・A、Bグループの両方とも通信できない場合は、Errが表示され、コード接続マークが点滅します。

【コマンダー機能時】

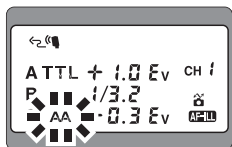
コード接続警告表示

CLSに対応していないカメラ装着時には、コマンダー機能は使用できません。コマンダー機能を設定すると、警告表示されます。

CLS対応カメラ装着時には、SU-800とSB-R200はコード接続では使用できません。コード接続された場合は、警告表示されます。

非適合カメラ接続警告

SU-800は、COOLPIXシリーズカメラ（COOLPIX P6000を除く）には使用できません。装着時には、ワイヤレス送信表示が点滅して警告表示します。

非適合レンズ装着警告

非CPUレンズ装着時に絞り連動外部自動調光（AA）モードに設定すると、AAモード表示が点滅して警告し、そのグループは発光しません。

【調光不能警告】

SB-R200をワイヤレスリモートで使用中に、外部自動調光やリピーティング発光などの指示を受信すると、赤色レディーライトが「速い点滅4回の後、約0.5秒間消灯」というサイクルを6回繰り返します。

コマンダーSU-800とリモートスピードライトSB-R200のトラブル

トラブル	原 因	対処方法
SB-R200が発光しない	SB-R200の電源がOFFになっている	赤色レディーライトの点灯を確認する
	コマンダー（SU-800など）とSB-R200のチャンネル設定が異なっている	同じチャンネルに設定する
	コマンダー（SU-800など）とSB-R200のグループ設定が異なっている	同じグループに設定する
	SB-R200のワイヤレスリモートセンサー窓にコマンダー（SU-800など）の制御信号が届いていない	SB-R200の位置を変えて、制御信号が届くようにする
画像にケラレがある	カメラのシャッタースピードがストロボ同調速度になっていない	シャッタースピードをストロボ同調速度にする
	広角レンズでケラレが生じる	レンズの焦点距離を変える
露出アンダーになる	カメラやスピードライトの測光センサーにスピードライト光が入った	スピードライト光が測光センサーに入らないように配置を変える
コマンダーSU-800のAF補助光が照射されない	SU-800がクローズアップ機能に設定されている	SU-800はクローズアップ機能設定時はAF補助光を照射しません。カメラのAF補助光は照射されます
	カメラのフォーカスモードが「AF-C」に設定されている	カメラのフォーカスモードを「AF-S」に設定する

カメラのファインダー内レディーライトの点滅による警告表示

原因	対応
クローズアップ（コード接続）撮影時で、SU-800をTTL調光ができないカメラに装着してTTLモードを選択すると、カメラのファインダー内レディーライトが点滅します。	マニュアル発光に設定してください。

マイクロコンピューターの特性

スピードライトの制御は、主としてマイクロコンピューターによって電子的に行われています。マイクロコンピューターの特性として、極めてまれに、充分容量がある電池が正しく装填されていてもスピードライトが正しく作動しなかったり、異常な表示が出たりすることがあります。このような場合は、電源をONにしたまま電池を入れ直し、作動させてください。

8 アフターサービスと保証について

■この製品の操作方法や修理についてのお問い合わせは

ご意見、ご質問はニコンカスタマーサポートセンターでお受けしています。

・ニコンカスタマーサポートセンターにつきましては、使用説明書裏面をご参照ください。

■修理を依頼される場合は

ご購入店、または当社サービス機関にご依頼ください。

・ご転居、ご贈答品などでご購入店に修理を依頼できない場合は、最寄りの販売店、または当社サービス機関にご相談ください。

■補修用性能部品について

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後7年間を目安としています。

・補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

・修理可能期間は、部品保有期間内とさせていただきます。なお、部品保有期間経過後におきましても、修理可能な場合もありますので、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。

・水没、火災、落下等による故障、または破損で全損と認められる場合は、修理が不可能です。なお、この故障または破損の程度の判定は、当社サービス機関にお任せください。

製品の保証について

① この製品には「保証書」がついていますのでご確認ください。

② 保証書はお買い上げの際、ご購入店からお客様に直接お渡しすることになっています。
「ご愛用者氏名」および「ご住所」「購入年月日」「購入店名」がすべて記載された保証書をお受け取りになり、内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

③ 保証規定による保証修理は、ご購入日から1 年間となっております。
「保証書」をお受け取りになりませんと、上述の保証修理がお受けになれないことになりますので、もしお受け取りにならなかった場合は、ただちにご購入店に請求してください。

④ 海外での保証内修理は領収書の提示を求められることがありますので、保証書とともに領収書の携行をお願い致します（領収書のない場合は有料となる場合があります）。

⑤ 保証期間経過後の修理は、原則として有料となります。また、運賃諸掛かりはお客様にご負担していただきます。

⑥ 保証期間中や保証期間経過後の修理、故障など、アフターサービスについてご不明なことがございましたら、ご購入店、または当社サービス機関へお問い合わせください。

9 仕様

ワイヤレススピードライトコマンダーSU-800

送信方式	閃光放電管による赤外パルス発光による通信
送信到達距離	SB-900/SB-800/SB-600：約20m SB-R200：約4m（通常設置状態にて）
チャンネル数	4チャンネル
グループ数	3グループ
送信回数	約1,200回
送信間隔	約1秒
発光波長	約800～1,000nmの赤外光
照射範囲	垂直方向：約60°、水平方向：約78°
表示	LCD、レディーライト
AF補助光	約10m（50mm F1.8レンズ使用時の中央部分）
使用電池	3V CR123Aリチウム電池、1本
質量（重さ）	約160g
寸法	約68×96×58mm（幅×高さ×奥行）

ワイヤレスリモートスピードライトSB-R200

形式	直列制御方式TTL自動調光スピードライト（ワイヤレスリモート専用）
ガイドナンバー	10（ISO100・m）、14（ISO200・m）
照射角度	焦点距離24mmの配光をカバー（垂直方向約60°、水平方向約78°）
発光モード	i-TTL/D-TTL/TTL（フィルム一眼レフカメラ） M（マニュアル発光）
最短発光間隔	約6秒
発光回数※/フル発光からレディーライト点灯までの時間	290回以上/6～30秒 ※30秒に1回の発光を行ったときのデータです。
バウンス角度	正位置を基準に下方（レンズ光軸側）60°（15°おきにクリックストップ）、上方（レンズ光軸反対側）45°（15°おきにクリックストップ）
閃光時間	約600μs
脚部	アタッチメントリングSX-1またはスピードライトスタンドAS-20専用シュー
ターゲットライト	白色LED使用
表示	レディーライト
使用電池	3V CR123Aリチウム電池、1本
質量（重さ）	約120g
寸法	約80×75×55mm（幅×高さ×奥行）

・仕様中の性能データは、すべて常温（20℃）、新品電池使用時のものです。
・仕様、外観の一部は改良のため予告なしに変更することがあります。

10 索引

- 五十音順
- 各部の名称、アイコン等は「製品各部の名称」(☞P. 18)、「SU-800の表示パネル、アイコン」(☞P. 20)をご覧ください。

さ

た

な

は

ま

ら

わ

製品の使い方に関するお問い合わせ

＜ニコン カスタマーサポートセンター＞

全国共通のナビダイヤルにお電話ください。

0570-02-8000

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9：30〜18：00（年末年始、夏期休業日等を除く毎日）
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577 におかけください。ファクシミリでのご相談は、（03）5977-7499 に送信ください。

修理サービスのご案内

インターネットでの修理のお申し込み

下記 URL から「ニコン ピックアップサービス」のお申し込みができます。宅配便などでお送りいただいた場合などの「修理金額見積り」、「修理状況」、「納期」などもご確認できますのでご利用ください。

http://www.nikon-image.com/support/repair/

修理品のお引き取りを依頼される場合は

＜ニコン ピックアップサービス＞

下記のフリーダイヤルでお申し込みいただくと、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）が、梱包資材のお届け・修理品のお引き取り、修理後のお届け・集金までを一括して提供するサービスです。

0120-02-8155

営業時間：9：30〜18：00（年末年始12/29〜1/4を除く毎日）
※左記のフリーダイヤルは、ニコン指定の配送業者（ヤマト運輸）にて承ります。

製品に関するお問い合わせは、上記のカスタマーサポートセンターへお願いいたします。
修理に関するお問い合わせは、下記の修理センターへお願いいたします。

修理品を宅配便などでお送りいただく場合の送り先と修理に関するお問い合わせは

＜（株）ニコンイメージングジャパン　修理センター＞

230-0052　横浜市鶴見区生麦2-2-26

0570-02-8200

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます

営業時間：9：30〜17：30（土曜日、日曜日、祝日、年末年始、夏期休業日など弊社定休日を除く毎日）
ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、（03）6702-0577（ニコンカスタマーサポートセンター）におかけください。

●修理センターには、ご来所の方の窓口がございません。宅配便のみお受けします。ご了承ください。

株式会社 ニコン
株式会社 ニコン イメージング ジャパン

Printed in Japan
TT0D08(10)
8MSA2310-08